

特 116

735



始





特 116

735

大正六年十一月

地理研究報告

宮崎縣教育會北諸縣郡支會





持116  
735

## 卷頭の辭

静波中ノ一投石、其波紋ハ極處ニ迄到達セズニハ止マヌ。セルビヤ原頭、一青年ノ手ニナル一發ノ拳銃ノ響ハ、立チドコロニ歐州大動亂ノ阿修羅ノ巷ト變ジ、前古未曾有ノ一大事變ヲ突發シタ。歐亞ノ天地ハ津々浦々ノ果マデ、此震撼ニ席捲サレテ居ル。開戦以來三閱年、モンロウ主義ヲ以テ名ダタル北米サヘ此渦中ニ捲キ込マレ、世ハ舉ゲテ名實共ニ「大動亂」ノ期トナツタ。

「時代ハ英雄ヲ作り、英雄ハ時代ヲ作ル」一大非常時ニハ、一大革新ノ來ル、古往今來等シク其數ニ洩レヌ、世界各國ハ此一大時期ニ乗ジテ、堅實ナル土臺ヲ建設シ、健全ナル發達ヲ遂ゲ、以テ國家ヲ泰山ノ安キニ置カントシ、各方面ノ施設經營ニ努メ、各局面ノ取捨展開ニ意ヲ專ニシ、此所ニ現今ノ時代精神、刻下新思潮ノ源泉ガ産ミ出サレテ居ル。

軍事防備ノ擴張、殖産興業ノ獎勵、通信交通機關ノ完備、科學ノ獨立等ト、枚擧スレバ際限モナイガ「教育普及」ノ確ニ其主要事タルコトハ、何人ト雖モ否マムベカラザルトコロデアル。然リ教育ノ普及ハ教育ノ普及ハ眞ニ是ハ一大樞要事タルヲ失ハヌ。吾人ハ此期ニ際シテ、更ニ教育家ノ自覺ヲ絶叫スルト與ニ時勢ノ推移ニ意ヲ留メテ、六莖十菊ノ悔ヲ殘サザランコトヲ力説仕度イト思フ。

歐州交戦國ノ現状ハ果シテ吾人ニ何物ヲ指示シテ居ルカ？ 焦點距離ニ達セントシツ、アル、現時ノ時代精神ハ能ク吾人ニ何等ノヒントヲ與ヘツ、アルカ？ 思フノ時、吾人ハ卒然ト膝ヲ敲イテ莞爾タルモノガアル。莞爾タルモノトハ果シテ何ゾ、即本支會ガ昨年理科ノ研究會ヲ開催シ、本年新ニ地理科ノ研究ヲ重ヌル所以、等シク其軌ヲ此所ニ發スルニアル。取りモ直サズ世界ノ趨勢ニ鑑ミ國家ノ要求ニ考慮シテ、最モ



目次

- 卷頭ノ辭……………一
- 文部大臣訓辭……………三
- 理科教授ニ關スル郡長訓辭……………五
- 地理ノ基礎觀念養成法……………六
- 地理實習ノ具体案……………一
- 地理教科書ニ於ケル地方一二ノ取扱法……………一六
- 地理科ニ於ケル經濟的方面取扱法……………二二
- 理科ヲシテ自發的ニ學習研究セシムベキ設備及學習指導法……………二六
- 小學校理科教材ヲ實際生活ニ應用セシメンニハ如何ニ教授スベキカ……………三二
- 若キ教師ニ……………三八
- 本縣地理教授資料……………四三
- 校外教授(博物)……………四六
- 教材ノ取扱研究ニ就キテ……………四八
- 改正規則……………五五
- 原稿募集……………六一

卷頭の辭

静波中ノ一投石、其波紋ハ極處ニ迄到達セズニハ止マヌ。セルビヤ原頭、一青年ノ手ニナル一發ノ拳銃ノ響ハ、立チドコロニ歐州大動亂ノ阿修羅ノ巷ト變ジ、前古未曾有ノ一大事變ヲ突發シタ。歐亞ノ天地ハ津々浦々ノ果マデ、此震撼ニ席捲サレテ居ル。開戦以來三閱年、モンロウ主義ヲ以テ名ダタル北米サヘ此渦中ニ捲キ込マレ、世ハ果ダテ名實共ニ「大動亂」ノ期トナツタ。

「時代ハ英雄ヲ作り、英雄ハ時代ヲ作る」一大非常時ニハ、一大革新ノ來ル、古往今來等シク其數ニ洩レヌ、世界各國ハ此一大時期ニ乘ジテ、堅實ナル土臺ヲ建設シ、健全ナル發達ヲ遂ゲ、以テ國家ヲ泰山ノ安キニ置カントシ、各方面ノ施設經營ニ努メ、各局面ノ取捨展開ニ意ヲ專ニシ、此所ニ現今ノ時代精神、刻下新思潮ノ源泉ガ産ミ出サレテ居ル。

軍事防備ノ擴張、殖産興業ノ獎勵、通信交通機關ノ完備、科學ノ獨立等ト、枚擧スレバ際限モナイガ「教育普及」ノ確ニ其重要事タルコト、河人ト雖モ否マムベカラザルトコロデアル。然リ教育ノ普及ハ教育ノ普及及眞ニ是ハ一大樞要事タルヲサス。吾人ハ此期ニ際シテ、更ニ教育家ノ自覺ヲ絶叫スルト與ニ時勢ノ推移ニ意ヲ留メテ、六畜十菊ノ極ニ於テサザランコトヲ力説仕度イト思フ。

歐州交戰國ノ現狀ハ果シテ吾人ニ何物ヲ指示シテ居ルカ？焦點距離ニ達セントシツ、アル、現時ノ時代精神ハ能ク吾人ニ何等ノヒントヲ與ヘツ、アルカ？ヲ思フノ時、吾人ハ卒然ト膝ヲ敲イテ莞爾タルモノガアル。莞爾タルモノトハ果シテ何ゾ、即本支會ガ昨年理科ノ研究會ヲ開催シ、本年新ニ地理科ノ研究ヲ重スル所以、等シク其軌ヲ此所ニ發スルニアル。取リモ直サズ世界ノ趨勢ニ鑑ミ國家ノ要求ニ考慮シテ、最モ



合理的ニ、最モ理想的ニ、初等教育家ノ立脚地ヲ鮮明ニセントスル努力デアアル。

地理科ハ生キタ學科デアアル。最モ現代的ノ學科デアアル。而モ無限ノスペースヲ包轄シテ居ル。遼遠ノタイムヲ連鎖シテ居ル。其範圍ヤ該博、其真理ヤ幽邃、其應用ヤ活潑自在、其間寸髮ノ矛盾撞着ヲ許容セズ學科デアアル。斯ル非凡ノ學科ヲ、斯ル非常ノ際ニ、最モ價值多ク、最モ趣味多ク、最モ經濟的ニ取扱ハンニハ、吾人ハ如何ノ態度ニ出ツベキカ? 思ヒ一タビ爰ニ到ラムカ、何人カ、「日暮レテ道遠キ」ノ感ナキヲ得ル者ガアラウ。今秋吾人ガ幾多ノ先輩達識ノ士ニ請フテ意見ヲ聽キ、指導ヲ御願スル所以ノモノ全クコ、ニアリテ存スル。群雀ノ一鶴幸ニ會員蒞蓄ノ四君ガ日頃ノ造詣ヲ本支會ノ爲披瀝サレタノデ是ヲ上梓シテ相見ユルコト、シタ。

理科ハ原代ノハヤリツコデアアル。「理科」ノ叫ハ天上天下遍ク響キ渡ツテ居ル。本支會ガ幸ニ着眼シキヲ得、早ク既ニ研究ヲ終ヘテ、當ニ「理科」ノ收穫期ニ入りタルハ、吾人ノ欣快ニ堪ユヌ次第デアアル、恰モヨシ雨君ノ該科ニ對スル玉稿ヲ得タノデ、錦上更ニ花ヲ飾ルコト、シタ。

時ヤ千載一過ノ此「大動亂」期、等シク各社會ガ、自覺!! 革新!! 力説シテ止マナイ機會ニ、本誌ガ及バズナガラ、盛裝以テ相見ヘントスルハ、今日ノ時勢上、將タ又教育的意味ニ於テ、蓋シ徒爾ナラズト信ズル。ナレド忽忙多時ノ砌、嘸諸彦ノ意ニ添タヌコトノミデアラウ。杜撰ノツクロヒ、魯魚ノ誤、與ニ諸彦ニ深謝スル次第デアアル。

編輯同人

### 文部大臣訓辭ノ一節

國家百般ノ施設經營ハ實ニ其源泉ヲ教育學藝ニ求メザルハナシ。而レテ今日教育ニ於テ、特ニ各位ノ留意ヲ請ハントスルハ、理化學ニ關スル智識ノ普及是ナリ。言フ迄モナク國家ノ富力ヲ直接増進スベキ殖産興業ハ、勿論軍事衛生土木交通等苟モ帝國文化ノ増進、國力ノ充實上必要ナル事業ノ發達ハ、一ニ是ヲ理化學ノ進歩ニ俟ツ。故ニ國民ノ理化學ニ關スル研究ヲ獎勵シ、其進歩シタル學理ヲ基礎トシ、以テ諸般事業ノ健全ナル發達ヲ期スルハ、實ニ現下ノ急務タリ。晚近世界ニ於ケル理化學ノ進歩ハ、實ニ顯著ナルモノアリ。今次ノ大戰ニ於テモ、現ニ理化學ノ軍事ニ對スル應用如何ハ各國ノ勝敗ノ數ヲ左右セントスルガ如キモノアルニ係ラズ、我國民一般ノ理化學ニ關スル智識思想ノ、尙甚ダ幼稚ナルハ本大臣ノ、各位ト共ニ最モ遺憾トスル所ナリ。故ニ今後各學校ニアリテハ、一層理化學思想ノ啓發ニ努メ、其教授ノ方法ヲ改善シ、特ニ重キヲ其ノ應用實驗ニ置キ、以テ國民生活ノ實際ニ、適切必要ナル原理原則ヲ、確實ニ會得セシメンコトヲ期セシメザルベカラズ。然ルニ現時我國中等諸學校ノ理化學教授ノ實際ヲ見ルニ、生徒實驗ノ設備ヲナスモノ甚尠ク、從ツテ其授業往々抽象的ニシテ、且ツ注入的ナルノ感ナキニアラズ。此缺陷ヲ補足改善スルハ實ニ、刻下ノ急務タルヲ信ジ、今回先ヅ師範學校中學校ニ於ケル、物理及ビ化學ノ實驗ニ關スル設備ヲ爲サシメンガ爲メ、國費ヲ支出シ該科教授ノ改善ニ資スルノ途ヲ開カントス。其額タル固ヨリ十分ナラズト雖モ幸ニ議會ノ協賛ヲ得テ、是ガ實行ヲ見ルニ至ラバ、一般國民ノ理化學ニ關スル智識ノ向上進歩ヲ促スニ於テ、有力ナル端緒タルベキヲ信ズ。各位ハ克ク此ノ旨趣ヲ體シ、必要ニ應ジ國費ト相俟テ、相當ノ費用ヲ支出シ是ガ施設ヲ完成シ、以テ該科教授ノ目的ヲ貫徹スルニ於テ、遺洩ナキヲ期セ



ラルベシ。

立國ノ精神ヲ明ニシ國民ヲシテ、我國家ニ對スル責務ノ觀念ヲ深カラシメント欲セバ、内我國情ニ通ジ外列國ノ國勢ヲ詳ニシ、以テ我國ノ諸外國ニ對スル關係ヲ確知セシメザルベカラズ。由來我國民ノ海外ニ關スル智識ハ、概ネ淺薄ニシテ殊ニ比隣ノ諸國ノ地理上、歷史上、頗ル密接ナル關係ヲ有スルニ係ラズ、是ニ關シテ明確ナル智識ヲ有スル者極メテ少シ。今ヤ歐洲戰亂ノ結果、東洋ニ於ケル我國交ハ更ニ滋キヲ加ヘタルノミナラズ、平和克復後世界ノ政局一轉シテ、東洋ノ天地ニ移ラントスルノ傾向アルハ、蓋シ推知ニ難カラズ。國民ヲシテ東洋諸國殊ニ支那南洋諸島ニ於ケル、通商貿易其他我國民ノ生活ニ關係アル智識ノ普及ヲ圖リ、其國情ノ研究ヲ獎勵スルハ、彼我國交ノ親密ヲ加フルニ資スルハ勿論、又我國民ノ海外發展ノ確實ナル基礎ヲ樹立スル所以ニシテ、頗ル緊切ノコトニ屬ス。是ヲ以テ本省ニ於テ夙ニ直轄高等商業學校中ニ、或ハ支那貿易講習科、又ハ海外貿易科ヲ設ケ、外國語學校ニ東洋語、南洋語、諸學科ヲ設置スル等、以テ將來比隣海外諸邦ニ、活動セントスル者ノ目的ニ副ハシメンコトヲ期セリ。各位ハ深ク情勢ニ鑑ミ、地方教育ノ指導監督上一層海外諸國、殊ニ隣邦諸國ニ關スル智識ヲ開發シ、國民將來ノ生活ニ必要ナル智識ヲ與フルニ努力セラレンコトヲ望ム。

大正六年五月



### ●理化學教授改善に關する郡長訓辭

理化學較近ノ進歩ハ實ニ顯著ナルモノアリ、殖産ニ興業ニ將、軍事ニ之ヲ應用シ以テ文化ノ増進國力充實ヲ圖リツ、アリ。

我國亦列強ノ趨向ニ鑑ミ、曩ニ理化學研究所設置ノヲアリ今又師範學校、中學校ニ於ケル理化器械設備費國庫補助ノ企劃アリ。

惟フニ理化學ニ關スル智識涵養ノ根柢ハ小學校ニ於ケル理化教授ノ方法ヲ改善シ且實驗設備ヲ完成シ以テ發明的實驗的ナラシムルニ在リ、今ヤ理化教授ノ實際ハ着々改良ノ歩ヲ進メツ、アリト雖モ、未ダ實驗ノ方法、器械ノ設備等充分ナラサルモノアリ、殊ニ兒童ノ實驗設備ニ至リテハ殆ンド之ガ備付ヲナサザルハ誠ニ遺憾トスルトコロナリ。

各位ハ一層器械ノ活用並實驗設備ノ整備ヲ計畫シ以テ理化教授ノ徹底ヲ圖シレンコトヲ望ム。

大正六年九月





# ●地理の基礎觀念養成法

第一部 發表者 富松嘉吉

## 目次

- 第一、基礎觀念の範圍。
- 第二、基礎觀念として附與し置くべき主なる事項。
  - 一、自然地理。
  - 二、人文地理。
  - 三、地理的理法。
  - 四、地圖の讀解力。
- 第三、基礎觀念養成法。
  - 一、尋四までに於て基礎觀念養成法。
  - (一)、尋四以下の讀本に表れたる地理教材の取扱
  - (二)、其他の教科に表れたる地理教材の取扱
  - 二、尋五の初に於て整理の方法
    - (一)、地圖の讀解力整理。
    - (二)、郷土地理。

第一、基礎觀念の範圍。  
尋五の初に於て一般地理を教授するに當り不自由を感じざる程度の類化觀念とす。

第二、基礎觀念として附與し置くべき主なる事項

- 一、自然地理
  - 山及山脈川。(本支流、上中下流、水源、河口、流域)。平野。海(海岸)、岸港、灣、半島、島、燈臺、深淺)。氣候(三帶雨雪)。面積。
- 二、人文地理
  - 産業(農、工、商、(貿易)、水産業、鑛業、林業養蠶業)。交通(汽車、汽船)。都會。官衙。神社、寺院。名所舊蹟。行政機關(府、縣、郡、市町、村)。
- 三、地理的理法。
  - 地勢と産業。産業と都會。都會と交通。地勢と住民。川と平野。氣候と産業。
- 四、地圖の讀解力

平面圖の觀念。縮尺面積及距離の觀念。方位の觀念。高低の觀念。諸記號。

## 第三、基礎觀念養成法。

- 一、尋四までに於て基礎觀念養成方法。
  - (一)、尋四以下の讀本に表れたる地理教材の取扱。
  - 卷二、六課 かは 水源、大きな川へ流れ込むこと等授く
  - 卷三、一六課 四方 方位(東西南北)を授く。
  - 卷三、二二課 うみ 海、海の交通、漁業。
  - 卷四、一課 私どものまち 市街、商業、村落と町との關係、わが町村の名「市街の實況を觀察せしむ」。
  - 卷四、二課 山の上の見はらし 鳥瞰圖の見方縮圖の觀念 郷土との結合「郊外教授をなす」。
  - 卷四、四五課 水のはび本支流、上中下流、瀧川と平野、川と交通、平面圖の觀念。

卷五、六課 大佛 日本地圖の見方、

卷五、一四課 ていしやば ていしやば、汽車貨物集散の狀況、

卷五、一五課 汽車のたび 鐵道の記號、郷土の交通機關に付(汽車遠足をなす)

卷五、一九課 炭と油 鑛業、

卷六、一課 日本 日本は島國なること、海岸日本國土の大体、方位觀念

卷六、三課 遠足 曲線式圖の讀解、記號教授縮尺の觀念、高さの觀念、

「遠足をなす行路圖製作」

卷六、一二課 京都からの半紙 日本地圖見方の練習、神社寺院、名所舊蹟

卷六、二〇課 材木 林業、

卷六、二三課 港 港灣の觀念、海の深淺、船舶、港と人生との關係、

卷六、六二四課 大阪 地勢と都會、地勢と住民



産業と都會

卷七、九課 かひこ 養蠶業、  
卷七、一六、一七課 東京見學首府、行政機關  
都會と交通

卷七、二一、二二課 海の生物海と水産業、  
卷七、二四、二五課 航海の話大洋、航路、燈  
臺、貿易、世界地圖の見方

卷八、二二、二三課 世界の話地球儀、六大洲  
の名、三大洋、主なる國名及特長  
氣候の三帶、氣候と人文との關係  
人種、南北兩半球、

卷、八二六課 名古屋 平野と産業、  
(二) 其他の教科に表れたる地理教材の取扱、  
算術科に於て面積人口距離物價實測の計算等は  
なるべく郷土の實際に結び附け圖書科に於ては  
平面圖の觀念を明確になし置き修身科に於て地  
名方位等を示す場合に、地圖を示す等成るべく  
該科の本質を失はざる範圍に於て地理教授の基

礎觀念を養成するの資たらしむること、

二、尋五の初に於て整理の方法、  
(一) 地圖の讀解力整理「約二時間」、  
い、平面圖の觀念、

側面圖鳥瞰圖より導きて平面圖の觀念を明確  
にす。  
ろ、縮尺面積及距離の觀念「讀本卷六第三課遠  
足と連絡す」

1. 縮尺の必要  
マツチ箱の平面圖を描かしむ、

次に縦五寸横四寸のちよき箱を紙片に描か  
しむ「實物大の圖が描けぬ、こゝで縮尺の必  
要を感せしむ」

2. 縮尺の方法、

五寸の半分の二寸五分と四寸の半分の二寸と  
にて描かしむ然してゆ邊の長さを二分の一に  
描いた地圖であるからこれは二分の一の地圖  
であることを知らしむ、

3. 縮尺と面積、  
併し面積を比ぶるに二分の一の地圖なれど  
も四分の一に過ぎない仍で縮尺とは長さに  
ついて云ふことで面積について云ふことで  
ないことを授く、

4. 比例尺、高低屈曲の距離と水平距離、  
郷土の地圖及兒童の平常見聞してゐること  
によりて比例尺のこと及其測り方、高低屈  
曲の距離即ち道路距離と水平距離即ち地圖  
上にて云ふ距離との觀念を明確にする、

5. 教室の平面圖描出 (凡そ百分の一)、  
は、方位の觀念、  
教室の平面圖描出に續いて授く。

二、高低の觀念、

1. 曲線式圖 (讀卷六第三課遠足と連絡)  
二尺四方の板上の中央に高さ一尺位の一本  
の竹を立て、其頂上から糸を四方に張り山  
の形を作る、次にこの山の頂上から二寸四

寸六寸の處に横に鉢巻をつくる (これが等  
高線)、今山の頂上から眺むるとこれ等の  
等高線は板上に落ちて見ゆる、これを一層  
明瞭にする爲めに等高線の落ちる處へ前以  
て水平曲線を描いて置くがよい、これが曲  
線式圖である。  
2. ホカシ式圖、  
この曲線式圖を色の濃淡にて表したのがホ  
カシ式圖である。

(二) 郷土地理 (凡そ三時間)

郷土の地理模型及地圖によりて (地理模型なき  
學校にては郊外の適當の場所に於て地圖と對照  
しつゝ) 第二に擧げたる基礎觀念として附與し  
置くべき主なる事項を郷土の材料によりて授く



例へば

位置を授くるには、境界より見たる位置、全局より見たる位置一地點より見たる位置等を授く。面積を授くるには

一方里の意義、其町村の面積及主觀し得らるる範圍の面積を授く

住民を授くるには、

其町村の人口民員及都城の人口。

地勢を授くるには、

山に關しては、

山高「さの標準になるべきものを定め

其高さを授けて置く」、山脈、山脈と

交通山脈と川の流、山脈と行政上の境

山と物産。

川に關しては、

水源、本支流、上中下流、流域川と平

野、川の利用、水産物、行政上との關

係

平野に關しては、

平野と川、平野と産業、産物、平野と住民、平野と交通。

海に關しては

海岸、港灣、半島、島、燈臺、海の深淺水産物海岸の出入と産業の發達、海の交通

産業を教授するには、

農業、工業、商業、水産業、鑛業、林業、

養蠶業等のこと、地勢と産業、都會と産業

氣候と産業、郷土の主なる産業物産、

交通を教授するには

道路。汽車及其速力汽船及其速力、地勢と交通

交通と産業交通と都會

行政上の區分

區「大字」「町村」「郡」「縣」「國

氣候教授。

三帶、氣候と住民と産業、雨雪、雨雪と産業

附

一、郷土地理に引き續き本縣地理を授く。

二、基礎觀會養成上教室に備へ付くべき地圖

尋三、郷土地圖「町村圖及郡圖」日本全國、

尋四、尋三の外に世界地圖を加ふ。

尋五の初、尋四以外に本縣地圖を加ふ

備考、地圖は總てばかし式地圖とす

### 地理實習の具体案

第二支部 兒 玉 衛 門

- 一、距離測定に關する實習
- 二、面積測定に關する實習
- 三、地勢測定に關する實習
- 四、氣温測定に關する實習
- 五、旅行案内による實習
- 六、統計圖表に關する實習

一〇

七、地圖に關する實習

地理實習は之を基本觀念養成上必要の實習と本科教授に際して行ふ實習と分けて見る事が出来る併し此に於ては後者たる地理教授に際しての實習指導について述べやう。

地理實習

一、距離測定に關する實習

圖上の距離を測定するには、地圖の縮尺觀念が明瞭になつて居らねばならぬ依つて距離測定には第一着に其比例尺に注意せしむることが肝要である。此の梯尺記號は地圖を讀むに上に必要であるから平素地圖も取扱ふ上に注意せんければならぬ

1、現行小學校の地理附圖

- |         |           |
|---------|-----------|
| 七萬分の一   | 二百萬分の一    |
| 三百萬分の一  | 六百萬分の一    |
| 八百萬分の一  | 一千萬分の一    |
| 千二百萬分の一 | 千二百五十萬分の一 |

一一



千五百萬分の一  
高等科用地理附圖

此の外に

七百五十萬分の一 二千五百萬分の一

三千萬分の一 五千萬分の一

之等の縮尺を以て表はされたる地圖上の距離を測定せしむるには如何なる方便と方法によればよいかと、いふと實驗上之には縮尺計と名づくべきものを用ひた方がよい様である

2、縮尺計の構造

尋常科用

材料は馬糞紙を以て幅一寸三分位とし、長さ六寸五分の楕形とし、其長さを十等分して一つの尺度形の葉とす。

高等科用

材料構造は尋常科用と同様で、長さを五寸二分とす

其の裏面には縮尺との關係を記入せしむ。

縮尺との關係 尋常科用

二百萬分の一

十里

三百萬分の一

十五里

六百萬分の一

三十里

八百萬分の一

四十里

千二百萬分の一

六十里

千二百五十萬分の一

六十二里半

千五百萬分の一

七十五里

二千萬分の一

百里

縮尺との關係

高等科用

二千五百萬分の一

百里

五千萬分の一

二百里

其他は尋常科の縮尺と大体同様であるから、それ等の地圖上の測定には尋常科の縮尺計を用ひしめるがよい、仍て高等科では尋常科用のものと併せ用ひ常に二葉の縮尺計を用意せせば周到である。

縮尺計使用上の注意

1 圖上測定は水平直線距離であるから圖上測定

で十里ある距離も實際に於ては十五里も二十里もある所がある此の點は十分兒童に合點せぬ置かねばならぬ葉形の縮尺計の代りに糸を以て測定するもよい。

2 マルカートル式の地圖では赤道上以外の距離測定は出来ない

3 地圖に縮尺記號のない時は經緯線によらしむる外はない一度間約二十八甲七十哩に相當するマルカートル式の地圖も此の方法では大体測定する事が出来る。

二、面積測定に關する實習

1 現行の地理附圖の主なる縮尺について其の一里平方乃至十里平方百里平方の廣さを切抜いたものを用意し置き之を測らんとする圖上に置き其の掩ふ部分を調べるのである。  
一里平方はあまり小數で不便であるから十里平方百里平方を用ふるがよい。

一一二

十里平方左の如し

二百萬分の一

○、六四七九寸平方

三百萬分の一

○、四三二寸平方

八百萬分の一

○、一六一九寸平方

千二百萬分の一

○、一〇三九寸平方

千五百萬分の一

○、〇八六四寸平方

二千萬分の一

○、〇六四八寸平方

2 附圖一頁大の用紙に此の單位面積を表す基盤目を描き之で測定する地圖を敷寫し其の部分数を算へて面積の概算をするがよい。

敷寫する必要上セルロイド又は硝子板を用ふれば結構である又蠟引紙でも薄い洋紙でも事足るのである

3 別法として同一縮尺地圖を九州四國朝鮮とかいふ風に一々別々に切離し置くもよい、即ち切實地圖を作るのである

三、地勢測定に關する實習

1 高低測定法

一一三



圖上最高度の線を求めて分水界を引かしむれば地勢の大体を測定せしむる上には都合のよい實習である。

此の最高度の線も辿りて線を引かしむると山脈の走向が分り土地傾斜の度合河流の走向平野の分布等が自然に明かになる。

2 砂箱の利用  
地圖を觀察したるばかりでなく其の模型を作つて見ると的確に其の地勢を知ることが出来るのである。

3 模型地圖を利用する

#### 四、氣温測定に關する實習

1 温度表の記入  
教室内に寒暖計を置き正午休憩時を利用して其の日の温度を記入せしむ、温度表は方眼紙を便とし且日々の温度を朱線で結んで其の變化を明かにするがよい月末に至つては其の月の平均温度と其月最高、最低の温度とを求め

置き更に年末に至つて其年平均温度と最高、最低の温度とを統計し置くべきである。

2 氣壓  
氣温と同様に氣壓も日常生活に重大なる關係があるから其の觀測も時々試みさするがよい風雨寒暑を推測し簡單なる天氣豫報を試みさするも面白いとである。

#### 五、旅行案内による實習

旅行案内を教授上利用せしむるについては先づ第一に其の見方を指導せんければならぬ各線各航路の名稱及其其基點終點を知らしめ次に其各驛各港の發着時間相互間哩數其賃錢等の見出し方を知らすがよい  
はじめは郷土を出發點として各地への距離之に要する時間賃錢等を求めしめ漸次汽車汽船の連絡各線乗換接續等の實習に及ぶがよい、進んでは實地旅行の假想日程案を作製せしむるも興味深く且つ有益の實習である。單に旅

行案内は教授時間中のみならず平素教室適當の所に備へ付けて、隨時之に慣れしむるがよい。僅に十錢の旅行案内によつて教授上の利便以上生活上必要の智識を與へるとも出来る。

#### 六、統計圖表に關する實習

無趣味なる統計に興味を添へたのが統計圖である。

##### 1 統計圖の表し方

い、直線又は圓によるもの  
ろ、地圖によるものは、具体物を以て表示するもの  
例へば

1、直線又は長方形の高さ圓の分割を以て産額の多寡を示すもの

2、産物の分布 雨量布分 等温線等を地圖上に表すもの

3、軍艦の畫の比較によつて各國軍艦の總噸數

の多少を示すもの

4、酒樽の大小によつて酒造額の多少を示すもの

##### 2 統計表の表し方

い、一地方一國の總括として産物の上より人口の上より地勢の上等より種々彙類的に一の表解を作らしむ

此の彙類表は總括復習に於てなすばかりでなく繼續的に行はしむることが出来る

例へば産物の出で来る毎に其の品目、産地、産額等を順次記入し行き同品目同欄に順序を追ひ系統を正し記入すれば後には一の立派なる産物表が完成する。この方法は記入の毎時に以前學んだ産物と比較し其の關係を考へる所から復習も併せ兼ねるとになつて都合がよい

#### 七、地圖に關する實習

地圖による實習は地理實習中、最も主要なる



ものである讀圖の作業描圖の仕事等は殆ど地理教授の主眼とする處である

### 1、略圖の實習

描圖の實習は一般によく行はれて居るがたゞ多くの時間と努力とを要しながら其成績は單に一枚しか出来ぬのが一般であるが極略圖でよいかから迅速平易に四度でも五度でも一度に描かすがよいと思ふ

### 2、板上略圖

その要求に應ずる一法として板上略圖の練習がよい 普通の教室では塗板が二乃至三面あるから其場所の許すだけ多くの兒童を板上に出すのである而して其描く地圖も全一地圖を數回描くともあるが 多くは甲は地勢圖では交通圖丙都會分布圖といふ様に分擔を定て描かすがよい。 抽くのは暗寫によることもあよるが多くの場合は臨寫でよからうこの數名が板上で各種

の地圖を抽いて居る間に席にある他生には半紙四板切位に略圖を抽かすかよい。 而も板上に出来大略圖を批評しながら之を土臺として教授を進めるやうにするがよい 其他教授の間でも整理の時間でも四つ切半紙に附圖數寫の實習や時間を限りこの速寫練習を課すことし以て地圖に親昵し抽圖に慣れる機會作らねばならぬ 要は平易迅速を旨とし然も實際の地形と徑庭なきことを以て指導の眼目とせねばならぬ

## 地理教科書に於ける地方一二の取扱法

第三支部 皆 森 藤 市

### 一、地方區劃の利點

#### 二、地方一二の取扱の精神

##### (1) 地方一二の區別の趣意

(2) 編纂趣意書より見たる地方一二の内容排列

### (3) 地方一二の取扱の趣意

#### 第一地區方劃の利點

- 1、各教材に關係あらしむる取扱上より府縣の小區劃に區切ると自然に教材が獨立的となる
- 2、一地點一府縣の事象を我國といふ觀念に綜合するの便利上より
  - 一地點一府縣の事柄を一躍直ちに我國といふ觀念に綜合するよりも先づ一地方といふ觀念に綜合し而る後我國といふ觀念に綜合するが便利である

#### 第二地方一二の取扱の精神

### 一、地方一二の區別の趣意

是は編纂趣意書を一讀すれば直ちに判ることである

### 二、編纂趣意書より見たる地方一二の内容的排列

- 1、地方一の内容的排列
  - イ地理的要素數項の排列 (位置地勢氣候產業交通區分の數項に排列す但内地の諸地方は

氣候の項目を加へず)

ロ位置の關係的相對的排列

ハ地勢一二三等の排列 (有名なるもの重要なものを先にし否らざるものを後にする主義による又海岸 (岬角、燈臺) 海洋 (海底深淺) については全く取扱ひ居らず)

ニ産業の排列 (一般的の觀察によりて撰び、重要なもの有名のものより順次排列す)

ホ氣候は著しき地方についてのみ記述す

ヘ交通は陸上を主とし海上を従とせらる

ト十一地方の排列 (編纂者が見て最も自然にして便利なりと思惟したる順序に排列す)

#### 2 地方二の内容的排列

イ雜然たる記號 (位置地勢等小目を立てず種々雜然と記述す而して都邑を其中心とす)

ロ一般に都邑の記述を主要としてある

ハ一般に其他の事項は特殊にして顯著なるものが掲げてある



ニ該府縣にあつては先で有名のもの必要のものが撰び記述してある

ホ各府縣記述の順序は編纂者が見て穩當便利ならんと思惟したるまに順序されてある

### 三、地方一二の取扱の趣意

地方一を以て概観的總括的の取扱をなし地方二を以て分解的の取扱をなすものであらう、何となれば地方總論は演繹法の大前提とも見るべきものなれば地方各論の教授にては地方總論の智識を基礎として始めて補成せられて立派な智識となるのであらう而し又他方面より見る時は總論は寧ろ個々の地方各論の智識を基礎として歸納せられたものとも見る事ができるからである。

#### A 地方一の總括的取扱

#### 一 概観的取扱

##### A、概観的取扱の任務

自然地理の主要を述べ之と因果關係のある人

て直ちに位置が指摘される様に記憶せしめておかねばならぬ。等を充分記憶せしめておかねばならぬ。

ニ一地方内の氣候は何處も著しい差はないから地方獨特の氣候は位置や地勢と關連して總論で取扱ふがよい。

ホ推究的取扱を徒らになさず

總論ではまだ其地方に對する個々の地理的事實が判つて居ないから先づ推究的の取扱は止めて個々の分實を充分覺へさすことに努めねばならぬ

#### へ該地方略圖記憶

個々の事實を一通り覺へる上の方便から其地方全國を抽かしめ特徴となり骨格となる様なものを記入せしめて地方全國を大體記憶せしめねばならない

ト管轄國名は地方二にて利用の場合に取扱ひ總論にては取扱はない

文地理方面に説き及ぼして大體の地方概念を作り地方各論教授の基礎出發の助とせねばならぬ

#### 概観的取扱上の注意點

イ、當然附帶すべき教材のみを附帶し欲深く多くを授けざること

#### ロ 地方二教材の悉知

教師は地方二の教材を悉知して教授にかゝらねば地方各論に詳しく述べてあることを總論に於て要らぬ説明に時間を徒費したり又は總論にて授けし事柄を各論にて訂正する様な不用意な教授をなすことがある

#### ハ 地方二取扱に必要な諸要素の記憶

重なる山脈山平野河川半島灣等の名稱位置其地方生業及び産物(主として天産)交通機關の重なるもの、行政上の區劃(殊に府縣名は其の文字まで記憶せしめ地圖につい

ニ地方一の總括的取扱(是は勿論地方各論分解的取扱の後に来るべき仕事であるが地方一の取扱を述べる順序の便利上こゝにのべる)

#### A 總括的取扱の任務

地方二にては分解的の取扱をなすのであるから勢智識が雜然となるのである。故に各府縣を一團とする一地方といふ立場からして各縣相互の關係を求め一地方の統整を保つことが必要となつて来る即ち總括的の取扱をなして地方としての纏つた智識を與へることが必要となつて来る

#### B 總括的取扱上の一般的注意

イ 平素の取扱に於て地的事實相互の關係を重んじ當日教授各復習を怠らぬこと

ロ 主眼の確立(各課各單元を吟味して其の主眼點を拾集し智識を要約洗練せばねならぬハ 郷土運動

總括材料の取捨標準には郷土關係をも加へ



郷土との交渉に基いて輕重を定め郷土との比較参照によりて智識の理解を容易ならしめ且つ有用的智識を與へねばならぬ、

ニ 兒童活動中心の取扱

總括に於て取扱ふ事象は總て既授のものであるから兒童の記憶を喚起しながら問答的に總括するを本體とせねばならぬ、

ホ 大勢の連観

他との比較對照によりて其地方としての大勢を窺はしめねばならぬ、

〇 總括的扱の方法

イ 地方一本文の多讀（内容が以前に比して明瞭になつてゐるから理解を確實にし記憶を確にせしむることができぬ）

ロ 該地方特色の記憶

彙類表作成。比較的精密の地方全圖抽法等によりて其地方の特色を纏めて之を確實に記憶せしめねばならぬ

ハ 地方啓發着眼の考察的取扱

其地方將來有望の産業現在の交通と將來の産業經濟上に及ぼす影響等の地方啓發着眼の取扱法をとらねばならぬ

ニ 地理的理法攻究態度の養成を目的とする取扱法

産業の盛因都會發達原因等の發達過去の調査或は自然地理より當然起るべき人文上の關係點を發見せしむる等地理的理法攻究態度を養成するが如き取扱法をとらねばならぬ

ホ 其他の取扱法

假設旅行、教科書挿繪の説明、以前教授に使用せし標本繪書の説明、郷土との關係事項抽出等の方法により地方二を復習しながら地方一にまとめる

B 地方二の分解的取扱

一 地方二分解的取扱の任務

用については特に注意して教授せねばならぬ

三 府縣教授の着眼點

A 自治の最上級團としての府縣取扱

自治の最上級團地方行政の一區劃といふ地方自治の一團なる生命に着眼して他と對立せしむる必要がある。即ち其の府縣が地理的要素精神的要素に於て如何なる特徴を有して居るかといふ所謂其府縣としての價値を大體とせしめねばならぬ

B 府縣特徵中心の取扱

各地理的要素を個々羅列的に取扱はず其府縣の自然人文上の特徵ある點に主力をおき爾他の地理的要素は可成之に附帶して授けねばならぬ

イ 特徵の標準（特徵には左の二つがあるから其の意を誤らしめざる様注意せねばならぬ）

二 地方二取扱上の一般的注意

A 總論との交渉を求め乍ら教授を進行せしめねばならぬ

B 可成推究的取扱方法を採らねばならぬ、

D 地理的要素の相關的取扱

天來位置地勢産業都會交通等の地理的要素は相關係して一國土の地理を形成してゐるものであつて其の關係の密接なることは言ふまでもない、故に之等を個々別々に切離しては何等の意味をもなさない、過去の小學地理教授の一欠陥としてあまり純然たる地理學的の取扱に陥り各要素を關係的に眺めることが欠けたるの感がある故に吾人は其關係的方面の運



一、其府縣の特徴であり且我國の特徴であるもの

二、其府縣の特徴であり我國の特徴ではないもの

特徴抽出の見地

- 一、産額多き産物
- 二、忘れてならぬ名所
- 三、著しき地勢
- 四、歴史的に名高きもの
- 五、人口に膾炙してゐるもの
- 六、其他地方一、二の相關的取扱

地方一にて簡單なるとは地方二にて充實せしめ地方一にて抽象的なることは地方二にて具体化せしめ一方を豫備とし一方を復習として二者を相關的に取扱ねばならぬ

地理科に於ける經濟的方面の取扱法

第四部研究發表者 池田喜三次

目次

- 一、地理科に於て經濟的方面を重視する理由。
- 二、産業教授について

一、教材選擇の標準

- 二、産地の取扱ひにつき
- 三、産出原因の取扱ひにつき
- 四、用途、及び特徴の取扱ひにつき。
- 五、産額の取扱ひにつき。
- 六、販路の取扱ひにつき。
- 七、其他の注意事項

三、交通教授について

四 海貿外易の教授について

地理科に於ける經濟的方面の取扱法

地理科に於て經濟的方面を重視する理由  
我國現今の國勢上から見ても、個人の日常生活社會的生活上から見ても此經濟的生活より脱することはできぬ  
かゝる際に於て我國民の經濟的知識及び生産的思想は尙ほ乏しく甚だ遺憾とする所である。故に今後の教育に於ては此方面の發展に努力せねばならぬことは目下の急務であらう。

然るに小學校の各教科中にて最も此經濟的方面に關係の深いものは地理科である、故に今後の地理教授に於ては産業教授交通教授に革新を與へ國民の生産的及び經濟的思想の涵養を圖り産業の獨立進歩、國富の充實國運の發展を計らんとする念を養ふことに努力せざばならぬと思ふ。

二、産業教授について。

一、教材選擇の標準。

- イ、産額の多きもの、
- ロ、特徴あり古來有名なるもの。
- ハ、將來有望なるもの、
- ニ、貿易關係より見て重要なるもの、
- 三、産地の取扱ひにつき、
- 産出區域に依り三つに別つことができる。
- イ、一地点から産出するもの、
- ロ、一地点を中心とし其附近より産出するもの、

ハ、一地方より産出するもの、

この三つの場合によく意を含めて教授せねばならぬ。  
次に産地の異動についても注意せねばならぬ。

三、産出原因の取扱ひにつき。

第一、天産物。

- イ、地主として質上に原因を有するもの。
- ロ、主として氣温を有するもの。
- ハ、主として雨量に原因を有するもの。
- ニ、主として海流に原因を有するもの。
- ホ、人為的、歴史的に原因を有するもの。
- 第二、工産物。
- イ、生活上に原因を有するもの、
- 一、天産物の豊富ならざる爲め起る工業、工業がある。
- 一、原料の多量なる爲め起る産業もある、
- ロ、人為的、歴史的に依るもの。



ハ、製法の概要を知らずする。

四、用途、及び特徴の取扱ひにつき。

イ、此産物如何なる方面に使用されるか、即ち用途の概要を授く。

ロ、用途の如何に依りて其産物の性質をト知せしむ。

ハ、一目して氣付かれる様な特徴は、之を授けて置き日常兒童の身邊にて目塔する物については、一通り之れは如何なるものなるかと云ふ鑑識力を養ふ。

五、産額の取扱につき。

イ、生産額の多少と産業の盛否を考へしむ。

ロ、産物價値の判定と産額との關係を知らしむハ、産額を知らずする方法。

一、順序による法

一、比較による法

一、大數を以て示す方法

一、實物表示による法

六、販路の取扱につき。

イ、其産物の販路即ち集散地につき授く。

ロ、貿易品については需要供給の關係を知らずする。

ハ、政府の貿易政策につき授く。

七、其他の注意事項。

イ、産物は可成實物を示すを可とする。

ロ、經濟地圖産業地圖作製の必要がある

ハ、産物表を自製せしむるがよい。

ニ、實物標本等の見せ方に考案を要す。

ホ、産業發達の過去及び將來を考察せしめよ。

ヘ、其産業と國家の方針（保護獎勵策等）を授く。

ト、教材の實地研究、特に異動教材の研究に注意せよ。

三、交通教授について。

イ、交通線の價値の考察を常に爲さしめねばならぬ。

ロ、交通線は切れ／＼に教授した丈では實際上の價値がない。

ハ、交通機關施設の目的を明かに知らせねばならぬ。

一、産物輸送を目的とするものなるか

一、都會と都會との連結交通を目的とするものなるか

一、軍事上、特種の目的あるものなるか

一、名所舊跡、神社佛閣の旅客の爲めにするものなるか

二、交通と經濟との關係を知らせねばならぬ。

ホ、交通線の單複と文化の程度との關係を知らしめる。

四、海外貿易の教授について。

イ、我國が貿易として、天與の好位置なることを知らしめる。

ロ、我國貿易の狀況を、各國のそれに對比し、世界に於ける位置を自覺せしめる。

ハ、國產教授は、常に對外的に貿易上の關係を考へて授ける。

ニ、日常生活の實際に就いて、世界の生産は共通の實をなして居ることを悟らしむ。

ホ、重要輸出入品の實物標本及び統計圖表を常に兒童の觀覽に供するやうにする。

ヘ、貿易地圖を用意して其取引の狀況を明かにする。

ト、我國貿易上の短所缺點を知らしめ、之が改良發展に努力せんとする志操の涵養に留意する

チ、外國貿易に國家のとれる方針、政策、機關等に就いて知らしめる。

リ、舶來品尊重の舊幣を打破し國產使用を奨励する。 終り



理  
科  
研  
究



# ● 兒童をして自發的に學習研究せしむべき設備及び學習指導法

## 目次

### 第一部 中城 健

- 一、概説
- 二、理科教授と設備
- 三、博物材料教師用の要件
- 四、博物材料兒童用
- 五、理科材料教師用要件
- 六、學習指導法に付き
- 七、結論

#### 概説

兒童をして自發的に學習研究せしむることは教育上最も價值あることにして教育の終極の目的はこゝにあると思ふ而るに眞に自發的に學習研究すると云ふことは成人すら或はなし得ざるものが多いであらう學生はさて置き生徒は吾人の經驗により全きを期す

ることは出来ないまして兒童をやであるそれ故こゝに云ふ自發的學習と云ふのは或程度までは教師の挺子によりかく導びかれるのでなければならぬ兒童の自發的學習(自動主義とも同じやうな意義である)は元來の注入講演的教法と異なり教師の働く部分は極はめて少ないのであるからきはめてたやすい方法のやうに思はれるが決して左様ではない教師指導をあやまると飛んだ失策を生じ教授を無意義ならしむることがあるで教師は豊富なる智識と教授に對する準備を懈つてはならぬ而して教師は旅行者に對する道案内者のやうなもので其案内者は大体の説明をして他は旅客の趣味又は判斷にまかすべきである子供は能力は妙なもので獨立を喜ぶのである以下順を追ふて設備及び學習指導法につき卑見を述べ御批正を仰ぐ次第である

#### 設備につき

##### 理科教授と設備

云ふまでもないのだが理科は正しく實驗觀察の學問



である即ち自然現象自然物を研究の對稱として居るのである故に之が研究には相當の設備を要するのであつて設備なくして空に教授して得た智識は死んだ智識で何の要もなきぬそれ故に吾人は出來得べくんば完全なる設備と之が運用を必要とするのである以下順を追ふて兒童の自發的研究を主としたる設備につきごく簡単に述べやう

標本を學年別に陳列し自由に見得る所に設備すること

まづ出來得るならば一室を理科機械標本室にあてるのである而してここに機械標本棚を列べ其中に機械標本を學年別に整然と陳列しここには教師の機械標本見出し表と兒童の機械標本見出表とを作成し最も見易き所に掛け置くのである教師の準備すべきものは教師用機械標本見出表に兒童に準備せしむべきものは兒童用機械標本見出表に豫め記入し置くのである

觀察せしむるのである

理科教授地圖を作ること

この地圖は理科材料と博物材料と一緒にする法と別々にする法とあれど之を別々にし之を尙教師用と兒童用と二様に作る方がよいやうである

一、博物材料教師用の要件

- 1、學校に近きこと
  - 2、田畑山川等自然界の成るべく多くを含みしかもあまりに廣からざること
  - 3、四季の變化の明瞭なること
  - 4、停止して觀察すべき地を示し置くこと
  - 5、時々實地踏査して其觀察せしむることをよく記入し置き指導に便すること
  - 二、兒童用(教師用と異なる點のみを記す)
  - 6、郊外教授の際に記入すべき余白を置く
  - 7、半紙大位の廣さをよしとす
  - 8、經路停止研究すべき地點位を記す
- 三、理科材料教師用要件

表見出本機標(教)		題目	用具	備考
油	石	1、水より輕きこと	試験管十二	四分圓とす
		2、水と石油と混和せざることを	石油 揮發油 重油	各
		3、ガスの燃へること	アルコール ランプ マツター 試験管挾	

兒童用之に準ず

教師はこの表により教授一週前に教室用の陳列棚に陳列し置き兒童に自由に觀察せしめ置き兒童の學習動機を惹起したのである一体豫め其前週若しくは兩三日前より教室に機械標本模型等を陳列する等は兒童の好奇心を誘發し學習の念を喚起するものである教授後一週間位同陳列棚に置き自由に行實驗し

1、現代の人類の自然征服利用の有様を了解せしむるに適するものを含むこと

2、學校よりあまりに遠からざること

3、觀察せしむべき事項注意事項等精細に記入し置くこと

四兒童用(教師用と異なる點のみを記す)

- 3、觀察事項等々記入すべき余白を要す
  - 4、順路觀察事項は記し置く
- 學習指導法につき
- 抑も學習指導たるや最も困難なるものなれば準備等懈りなく充分になすの必要がある例へは理科曆の作成及び學校園の經營等である是等の準備に意を用ひなかつたならば決して適當な學習指導は出來得るものではあるまいと思ふ
- 理科曆を作り實驗觀察を指導し又之が準備をなさしむ
- 一、播種採集飼育製作時期等を記入せる理科曆



時期	名	播種法等	備考
五	蛇の脱皮	兒童に採集を命 じ置く	
十一	油 菜	床を作り苗をす	

二郊外にあるもの又は學校園に造れるもの等を觀察すべき時期を記入せるもの

時期	場所	事柄	學年	備考
11	畑	油菜播種の 有様	四	
12	畑	移植の有様	四	

之に附帶して觀察日誌を要す

兒童をして研究の方法を會得せしむ。何れの學科も其の研究法を會得し居ると云ふことは大切であるが殊に理科は研究の對稱が自然現象であるだけ之を大切とするのである。

一般的法

一觀察及實驗の要件を知らしめ置くこと。

1、明瞭に直觀すること。

1 出來得る限り多方面より自己の感官を働かし  
て直觀すること。

2 虚心平氣事實の有りのまゝを明確に實驗觀察  
すること、豫想を健てるな。

ロ主要なる點と否らざる點とを區別せよ。

二觀察及實驗の順序

1、大体の概觀より次第に各部分の詳細に進むこ  
と。

2、注意を引きやすき部分より否らざる點に及ば  
ずこと。

3、簡單明瞭なる部分より次第に複雑細微なる部

題目	時日	時日	天候	狀況	感想

- 三實驗觀察材料の準備を學さしむるための層要件
- 1、實驗觀察せしむべき要項を記す
  - 2、道具名を記入すること
  - 3、家庭等にて準備し得べきもの
  - 4、兒童用機械標本見出表に記しあるもの

題目	實驗觀察	用具實物
事項		等

分に進むと。

4、自己の經驗に近き部分より次第に遠き部分に  
進むと。

5、理解しやすき部分より難き部分に進むと。

三而して教師は常にこの順序方法によつて教授研究  
せしめねばならぬすると兒童は其方法により自然  
研究するやうになる。

動植物材料

一形態 全体より部分及び其の間の關係

二生態 生活の場所状態及び形態との關係

三人生との關係 吾人は之を如何に利用しつゝある  
か又防禦しつゝあるか今後如何

四動植物間の關係

礦物材料

一性狀

二用途及び種類

三成因及び所在  
理化材料



二 實驗の目的の確立  
二 装置材料及び方法  
三 概括

兒童實驗につきて

先づ兒童實驗につきて調べるには實驗の特質觀察の特質を明かにして置く必要がある

實驗の特質

- 1、人工を加へて任意に其必要とする要素だけを働かせ他の不必要なものを除去して原因結果の關係を明瞭に著取するを得しむ
- 2、所要の現象を顯著にして看取に便ならしむ
- 3、所要の現象を任意の時任意の場所に於て起して之が作用の進行を直觀し得しむ
- 4、自然物を其要素に分解或は合成して其成分を知らしむ

觀察の特質

自然物の外部的の事實を直觀するに用ひらるべき方法。以上述べたる特質に充分に注意を拂ひ教師實驗

もし兒童實驗もなさしめねばならぬ  
三一

兒童實驗の本義

兒童の自由意志により研究題目を決定し自ら研究方法實驗法を工夫し精細に觀察して智識を探究し統に整するものであるすべての發明發見は先人のこの方式よれるもので理科研究はこれを根本的方式とするのであるが兒童の心意發達の状況より考へる時は到底この方式を其まゝ適用は出来ないから吾人は之を目標としこれに近よらしむべく努力せねばならぬこれには先づ指導的の實驗觀察をなさしめねばならぬこれは教師が兒童の自己活動を助成して研究題目を與へ或は決定せしめ研究方法を教へ或は工夫考案せしめ實驗觀察によつて理科的知識を獲得するのである而して指導は兒童の研究力に適用せしめねばならぬ研究力の進むにつれて指導はだんだん減せねばならぬ

指導法

教ふる部分と教へざる部分とを豫め決定し置き又説

明すべき個所と説明せざる個所とを明かにしてかゝらねばならぬ其の教ふる部分は叮嚀反覆其根底を教授して徹底的智識ならしめ以て獨立研究に進むべき

素養を作らねばならぬ其の主なる根底とは兒童の着眼點即ち惡點を捕捉する練習等も含むのである

説明に關する注意

イ 兒童の自己活動を重んずること  
ロ 兒童の働く分量と教師の働く分量とを明に區別し置くこと

1 兒童の智識力に比して易過ぎるものは教師の方で説明して仕舞ふ

2 謎を解く様なことに兒童の心を苦しめてはならぬ

3 兒童の力にすぎた問題であることが明かであつたら初めから教師が説明すること

結論

要するに兒童をして自發的に學習研究せしむるには適當なる設備之が運用宜しきを得ること並に適當な

る指導をなすにあるのである

● 小學校理科教材を實際生活に應用せしむには如何に教授すべきか

第三部 永峰 彌吉

目次

- 一、理科教授と郷土理科資料の研究
- 二、利用厚生を主としたる理科教授
- 三、理科と日常生活に應用すべき事項調査
- 四、應用實習の指導

一、理科教授と郷土理科資料の研究

歐洲戰爭の影響は全世界に及び工業上經濟上其の他百般の事業何れも其の影響を蒙らないものはない此に於て此の世界的活動場裡に立つ我が帝國は産業の獨立を覺醒すると共に國民にもつと實際的なもつと役に立つ而してもつけと生産的の働きある人を養成することを要求する様になつたのである故此の要求に應ずるには先づ小學校の理科教授を刷新して國民の理科的知識を増進せしめ國民一



一般に理科的思想の普及を計り以て殖産工業を隆盛にし國家の要求充す様理科教授をなすは目下の急務で又此の種の問題を研究する所以である

1 現代の要求より見たる理科の三方面

現代理科教授上の問題としては第一に兒童の實經驗に基いて發見的創作工夫の能力を養ひたいと云ふ個人的の方面と國勢發展を考慮して生産能力を養成したいと云ふ國家的の方面と兒童の實生活を考慮して理科教材を實際化郷土化地方化たらしめたいと云ふ生活の方面との此の三である是等三の問題の要求に對するには少くとも郷土の資料を研究してさうして實際に利用する事の努力を要するので

2 郷土の意義

郷土を云ふのは兒童の自ら住んで居る町村を主として大多數の兒童の足蹟の及ぶ又目の及ぶ範圍を云ふのである

3 郷土資料の研究

1 郷土資料の研究としては第一に教材方面の研究調査であるが郷土を中心としたる平地高原山河の動植物に關し次に地質岩石礦物に關して研究し次に生産工業に關して町村内にあるものを一々調其次に理學應用物即ち主として物理上に關係した事で家庭の職業家庭に於て實際使つて居る理學應用の能く分る様な機械器具等を調査し是等教材の系統的具體案を調製するのである

ロ、理科地圖

尙之れを一目瞭然たらしむるため郷土理科地圖を作製し郷土内に於ける教材を地圖上に表し其の種類と分布の位置場所を明にし以て實物授集實驗觀察の便を計り實際生活と結合するのである

4 小學校理科教材の選擇及排列

イ、選擇の標準

兒童は生活に關係のある教材を選擇して授けることが頗る重要であるが要するに小學校の理科

教材を選擇する上に考慮すべき事項は多々あるが第一實驗觀察の便宜であるもの次に實際生活上に重要なもの第三に郷土を理解せしめるもの等である

ロ、排列の標準

排列は標準としては第一に季節に適するは兒童の心意は發達を考慮すべきこと教材相互の有機的關係を考ふべきこと

二、利用學生を主としたる理科教授

1 理科教授の目的と國家の要求

理科的知識は之を實際生活上に利用し活用して始めて其の價値の大なるもので理科を學ぶに依つて練磨されたる創作發見の能力は實際生活を利する上に或は産業を發展せしむる所以の心と一致するものがあるために理科教授に依つて此の力を養ふは同時に産業發展せしむる點で即ち産業は畢竟理科的智觀の應用になれるものであるからである故に一國産業の發達は國民の

理科的智識の實際生活に將又殖産工業上に利用し應用することの出来る活智識でなくてはならないので國家の要求も亦此にあるのであるされば理科教授は天然物及自然現象に關する單なる知識を授けるが如きは理科教授の主ではなく之れに依つて人生との關係を明かにし此の知識を應用し利用して個人としても國民としても完全に生活し且つ其の職分を盡し得べき才能を開てやるのが理科教授の眞の目的である

2、理科教授の缺陷

イ、其の多くは天然物及自然現象を重視し人生との關係即ち實際生活を輕視すること

ロ、説明觀察實驗が純科學的になり易く夫れ故に日常生活の上に又實業上に如何に利用されて居るか又將來如何に應用することが出来るかと云ふ實用的方面の粗漏なること

ハ、兒童の實驗觀察少く且つたまに行ふ實驗觀察も兒童の實際生活上の事實に觸れざること



理科教授の實際

學理よりも實際科學的知識よりも應用的才能を主とせなければならぬ即ち習へば直ちに行ふことの出来る活きたる知識利用厚生能力を尊重して之れが教授を主とすべきで然も物を見事に見れば直ちに如何にして利用するかと云ふ研究的精神の養成に努め原理法則を利用しては自ら工夫し研究して實際に活用する様教授の實際に於て應用方面の指導をなすべきである

1、教授に對する兒童の態度

價值觀念を明かにせよ與へられたる教材に對し兒童をして第一に之れは吾人々生に如何なる價值あるものか如何なる働きを有するものか又將來は如何にすれば利用の途を發見することが出来るかと云ふ態度を以て之れに當らしむるのである

2、兒童の實驗

兒童をして發見者の位置に立たせ自ら實驗し觀

三、

察させて獨立的に思考する習慣を養ひ日常遭遇する事物を判斷し實際生活に利用せしむるため理的方面に於ては日常兒童に卑近なる器具を以て實驗の設備をなし博物的教材にありては精密なる觀察が最も必要であるから學校園の設定をなし又は理科地圖を製し郊外觀察を盛ならしめそれには豫め郷土内に於ける郊外教授細目を編纂し觀察の事物と場所と距離等其の他必要なる事項を定め以て理科地圖と相俟つて實際生活と結合するのである

理科教材と日常生活に應用すべき事項調査  
理科教授は人生に關係してこそ眞の意義ある學科なるにも拘はらず實際生活に没交渉であると云ふのは第一に教授が科學的に流れて實際にふれないのと理科に關する教師知識が豊富でないため地方に適切に授くることの出来ないのと教材研究が不足で教授其のものは研究するがそれ日常生活に應用する方面につき深く研究され

ない結果である故に理科教授をして實際生活に應用せしめんには少くとも教壇に臨む前に必ず日常生活に應用し得る事項の二三は考へてかゝらなければならぬ此に於てか日常生活に應用すべき事項調査の必要があるので例へば

教材教授用項	應用事項
根莖葉花 ノ形態生 態ノ關係	1 植物油ヲ搾リ取ル植物ノ種類 2 製油法ト用途 3 此ノ種ノ植物ハ何用トナル 4 油粕ト肥料及作物ノ栽培
他ノ畧ス	

四、應用實習の指導

1、他教科との聯絡

理科にて收得せし原理法則知識を實際生活に應用せんには常に他教科との連絡を圖り之等關係の存する所は絶へず應用して應用の才能を練磨するため殊に圖書手工農業家事との連絡を取り

て既知の概念法則を應用する様間斷なく指導すべきである

2、經續的實驗觀察

實驗觀察には一時的のものゝ繼續的のものゝありて繼續的實驗觀察には絶へず教師の周到なる注意と綿密なる注意とを要するもので之等教師の注意の下に指導するときには此に實際を知り日常の生活に應用する才能を得るのであるが之れには先づ教師の理科教授要目と理科教授細目を要するので之等二表の對照により繼續的實驗觀察をなすを得他方には又教師の絶へざる注意をなすを得るのである

3、學校園の活用

眞に兒童の應用の實際實習の能を養ふべく學校園を活用せよ

4、玩具の製作

兒童の價值觀念を明瞭にし理科の趣味を惹起し創作發見の能力を養ひ實際生活に應用し實習す



附

録

るの研究の興味を大ならしむ  
5、實物の實際的取扱  
今迄多くの理科教授が日常生活に應用のされず  
實際と没交渉なりしは理科教授なるものが實際  
實物と結び付かなかつたからである其の理科的  
知識は活用の出来ないものであつたのであるが  
活知識たらしめんには實物實際と能く結合せし  
めなければならぬ即ち種子の發芽を授け其の  
理科原則を知つたならば實際それを行ふことに依  
り理科の生命は存するのである

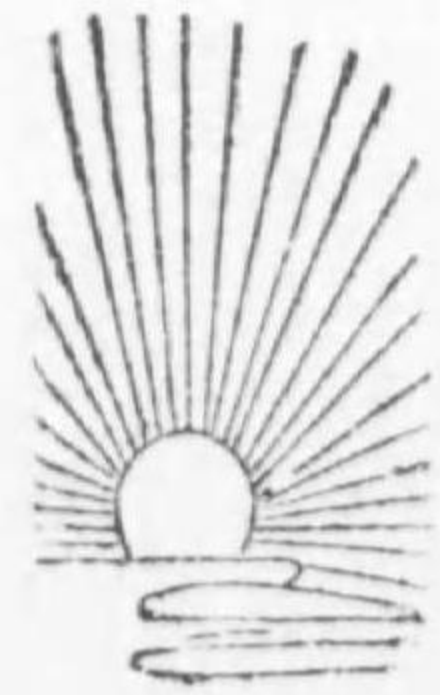




附

録

るの研究の興味を大ならしむ  
5、實物の實際的取扱  
今迄多くの理科教授が日常生活に應用のされず  
實際と没交渉なりしは理科教授なるものが實際  
實物と結び付かなかつたからである其の理科的  
知識は活用の出來ないものであつたのであるが  
活知識たらしめんには實物實際と能く結合せし  
めなければならぬ即ち種子の發芽を授け其の  
理科原則を知つたならば實際それを行ふ事に依  
り理科の生命は存するのである





●若き教師に

都城 鶴戸西生

本郡教育界と云へば、「圓滿」若しくは「平和」もつと悪口したら「沈滞」又は「消沈」等と、私は住時は連想したのだつたが、近時は何となく、吸及されるやうなキツメしてやりたいやうな愛着の念に支配される様になつた「本郡教育界」何所かに私の珍琴線をそよのかし、私の鼓動を高める何ものかが存在して居る様な私は感慨が湧いてならぬ。天は高くして鳥の飛ぶに任せ、海は濶くして魚の躍るに委せる、本郡教育界が全くそれだとは云はぬ。併し幾分それに近き氣運になつて居はすまいか、尠くとも幾分斯る氣分に向ひつゝあるのではなからうか？

「若き」の一言私は何となく好きだ。「是だから」と確然たる理由はないが、「若き」と云ふ一言は何所かに私をチャームするサムシングを有して居る。「若き」と云ふ一言が出れば、私は何となしに引つ張られる。談笑の間、清談の折、理由なくとも、私は「若

き」の一言を口に仕たいのが普通である。

「若き」と云つても、私の「若き」は必ずしも年齢上の意味ではない。三十にして老いたるもあらう。四十にして「若き」もあらう。七十の青年もあれば六十の壯年者も敢て珍しくない。要は其精神一つにある。心理如何にある。氣分の如何、心氣の持ち方にある。假令死に頻しても、冀くは「若かり」たいものと思ふ。

本郡教育界、此四字には何所かに此若い氣分が漂つて居るようだ。否々將に此若き氣分が横溢せんと云つた方が、適當であらう。私の琴線をそよのかし私の鼓動をそより立たせるものは此氣分だ。本郡教育界と云へば此氣分が唯何となく私を引つ張つて行くやうな感がある。何所まで行くのか知らぬ併し此若き氣分が私のハートに何物をか刻みつけようとする。私の琴線に強く強く觸れようとする。嗚呼若き氣分？ 若き教師私は秋の夜ながらに汝としてみりと話したい。



修辭の妥當を缺いて居るか知らぬが、往時の本郡教育界は、封建的の制度であつた。如何にかして郡教育の圓滿なる發達を遂げ、如何にかして全部舉つて統一的に而も劃一的に發達せしめ、其間一言の不平半句の怨嗟なからしめんには蓋し止むを得なかつたらう。有志との連繋もあれば、先輩との折り合もあり、理事者との交渉もある。お負けに是等の問題の後には、常に經濟と云ふ一大難問題が儼存して居る是等の要求に應ずるため、所謂封建制度が産み出されたのである。

是を以て一時の偷安が保たれた。一時の平和、一時の靜安は維持せられた、併し時勢の推移は、永く本郡教育界を此無聊桃源裡に逸居せしめなかつた。「いざ鎌倉」の警鐘は次から次へ、傳へられた。無事太平の本郡教育界の警笛は、取りも直さず學事奨励規則」の公布それであつた。實力主義：「實力主義：何とまあ會心の叫びであらう。爰に本郡教育界は猛然として立つたのであつた。靜的偷安期の快夢

は此警笛のために一掃し盡されたのであつた。如何にせば最も卓越せる實力を養成し得べきか如何にせば己優勝の月桂冠を落し得べきか此所に若き氣分が芽を出したのである。其動機は或は眞の教育的意味から來たのもあらう。無論然るべき筈だが、或虛榮の幾分子が含有されて居たかも知れぬ。併し確に本郡教育界を若き氣分に導いたことは事實である。本郡教育界を若がへらしたことは逸すべからざる事實である。實力主義其ものは、教育的か、將た非教育的かさて置いて、實力主義が本郡教育界を若がへらしたとは、そこにのみのがすべからざる教育的意味がある。本縣下に於て本郡教育界が算術國語教授に於て、一頭地を抜いた所以は、一に此若き氣分にある。今日の理想的行爲の尊きは、今日に就て其最善たるにある。現在より一步向上せる點にある、努力の結果向上の結晶なるが故である。然るに焉ぞ知らん今日の最善理想も、明日は既に習慣我である、即ち理想は相對的で其進歩は永久である。吾人が理想に

達せざる以上、人生の進歩は無窮である、人生は永遠に若い、吾人は棺を蔽ふまで若からねばならぬ。本郡を熱狂せしめた試験制度も、本郡教育界を白熱裡に導いた奨励規則も、吾人を若からしめた本案も、吾人が眞に若くなり盡せば、既に老の繰り言に過ぎなくなる。一場の茶飯事としか思れない。何をか其所に新らしきものを求めたいと希求する。

若き教師よ、願くは胸に手を當て、シンミリと瞑想の園に遊ばうではないか。汝の胸奥には人知れず「若き私語」がひらめきはしないか。「更に 若かれ」と耳語する何ものかありは仕ないのか、私は寂しい、私は心細い。私はもつと「若かり」たい。一葉落ちて天下は正に秋だ。褪すべき色は既に褪せて、涼しい秋風がフワリと襟もとを撫て、行く。秋だ！秋だ！目をじつと閉ちて居た寂しみが、そつと頭を擡げて森々と私を襲ふて來る。汗寂しい、若き教師よ、しんみりと秋の夜ながを語りあかそうではないか。

自發的の教育の源泉は遠く獨逸の大學教育にある。英國の學者は是をみて、大學に適當なれば、小學校に不適當なるべき筈がないと云ふので、早速是を小學校に採用した。是が其皮切りである。人生は長い一生涯は久しい、教育は國家百年の大計である。人生一代の大事業である。教育の着眼は常に此所に置きたい。實質的に智識其ものを授けることも、當面の大事業には相違ないが、半面更に重大なる腦力陶冶の形式的目的の存することを忘れてはならぬ。人生の競争は永遠である、人の一生は棺を蔽ふて初めて定まるものである。永い人生の競争場裡の優勝者たらしめ、花々しき意義ある人生の功勞者を作らんとするには、最早吾人は答案の成績のみに拘泥して居たくない、刻下の得點のみと首引して居るに忍びぬ。冀くはもつと「若かり」たい。何々故に自發的教授が、兒童の一生上より親切であるか、創作的自發的態度が、教育上如何の價値を有するか？ 學習態度の養成が今日何程の急務たるか？



か？教育教授の世評に吾人が何程耳を傾くべきであるか？吾人はもつと哲學的根柢を持ちたい。今少し其根柢より、ものに動せぬ立脚地に立ちたい。形而上に於てもつと「若かりたい」。

兒童が天然界に、人事界に疑惑を抱いて居るとは何人も承認するところである。彼等相互の遊戯間或談笑の間又は日常起居動作に於て、是こそ承認されることは一再に止まらぬ。「三つ兒の魂は百まで」と、是は教育上に如何の關係を有するものであらう。觀念聯合の法則を考慮し、類化の過程を眠中に於て教授を進むるものであるならば、宜しく教授は自發的ならねばならぬ。學習態度の養成は今日の急務である。此所に教授の出発点を置くことすれば、先づ徹底的に兒童の生に觸れねばならぬ。此要求に應せん爲、兒童の環境整理と、兒童心理研究の二問題に遭遇した理由である。由來敵を知り、己を知るは兵家の秘法とせられて居る。然るに漫然此理を明にせないで、教場に望む眞に寒心に堪わぬ。爰に思

を致して教場に望むなら、一學級數十名の兒童は自家藥籠中の者たらねばならぬ。果して然らば其教授や兒童中心主義で、發動的でなければならぬ。此方面に於ても、私はもつと「若き」教師たりたいのである。

兒童を中心として教授を進行すれば、勢ひ個別的たらざるを得ぬ。従つて其範圍は他方面に自然涉つて行く。然るに今日の教育は一齊教授である。學級單位である。他方面に涉る範圍を、徹底的に眞に兒童のものたらしむることは、甚だ容易の業ではない。殊に現代の文化を、眞に兒童化して理解せしめ、更に將來の發達に資せしめんとするには、普通の努力で満足せしむる筈がない。私が特に「若き」教師たりたいと欲して止まない理由の一つは又こゝにある。昔時の聖人君子等は、現代離れがして山間の幽谷に、清楚なる生活を送り続けんとしたが、今日の活動會には早通用さるべき問題ではない。物質文明を離れては今日は宗教も教育も成立仕ない。此意味に於て

國家の隆盛は、世界人道の基礎、個人道徳の母と云はねばならぬ。將來は内殖産興業の獎勵、外殖民政策の樹立に留意せねばならぬ。而して此根本は科學の進歩に俟つより他に求むべくもない。故にどうしても科學の必要を、國民に痛切に感じさせる必要がある。此所まで國民を導くは、教師は學徳の修養を重ねて徹底的の取扱をなす半面に、各自に其必要を自覺せしめねばならぬ。果して然りとすれば其過程上教授は兒童中心主義でなければならぬ。自發的教授でなければならぬ。

己の欲する所に従つて矩を越ねざるに到るまでは人生の進歩は無窮である。刻一刻、秒一秒、進歩の車は人生の坂をこつと進んで止まぬ。即ち吾人の生活は進歩にあらずんば退歩、退歩にあらずんば靜止である。「修養」を叫び、「向上」を力説するの聲高きは此間の消息を語るものである。更に天の一方には「老竹陶汰」、「若竹陶汰」の聲が恰も地震後地涌か襲來するかのやう、轟々と鳴り渡つて居る。

「讀書」「修養」と人生に若からんとする努力は、本郡教育界に澎湃として勃興しつつある。「若き」教師よ、更に確乎と握手を新に仕ようではないか。

時勢の推移と、刻下の現勢は更に層一層教育家に要求を強めつつある。學校内容の改善も必要だし、社會教育の急も日は一日と其感を深うする。兒童の個性も研究し、心理も究めて彼等の生に觸れねばならぬ。あらゆる點より、あらゆる生より彼等兒童の齟齬する疑惑にも、明確なる判断を與へてやらねばならぬ。それだと云つて自己修養を忘れ果てゝは、眞の木阿彌と懸して仕舞ふ。内憂外患交々到るとは是等の謂か、余程の決心と自信とがなくては、此盤根錯節を料理して行くことは不可能である。此必要より教師の精力向上の聲が高くなつて來た。昔の俗唄にもある通り腹が減つては如何もならぬ。胸に千金の妙策あふれても、蒲柳の質是を施すに術なくしては。早已みんぬる哉、己みんぬる哉とさじを投げるより他に仕方がない。活動の源泉は何と云つても體



格である。私達は此點に就ては飽く迄若かりたい、  
テニスよし、徒歩更に妙、翼くは、ピン／＼として  
永久に若かりたいと思ふ

汗「若き」の一語は私を此所まで引つ張つて來た  
汗永遠に願くは「若かりたいものである

### 本縣地理教授資料

富松嘉吉

はしがき  
尋五の初に於て地理の基礎觀念を整理補足すること  
が必要であると云ふことは殆ど一定して居る様であ  
る、然し其後直に一般地理にうつるか或は本縣地理  
を授けてから一般地理を講ずるかの問題は多少議論  
がある様である、要するに之は基礎觀念の程度問題  
である、成る程充分なる基礎觀念が出来て居れば主  
に一般地理にうつるも何等の故障もあるまい、併し  
多くの經驗者の話を総合すれば充分基礎觀念が出来  
たと思つて一般地理に打ちかゝつても思はぬ故障が  
生じて運轉を中止せねばならぬとが往々あると云ふ

とである、してみればこれは理想論であつて適切な  
る實行案では無いと云はなければならぬ。

反對論者は云ふかも知れぬ斯くては教材が遅れる  
と一應尤もの様であるけれ共基礎觀念が確立して居  
れば一般地理に入つてから教授が停滯なく進む筈で  
ある殊に本縣地理に廻り合せた時には復習位にて済  
ませることが出来るから時間は寧ろ經濟で理解も容  
易ではないか

郷土地理、日本地理、本縣地理とやるよりは郷土地  
理、本縣地理、日本地理、然して外國地理とやつた  
方が順序から謂つても系統が立つてよいではないか  
吾人は此見地から一般地理を教授する前に一應本縣  
地理を授け頼他の基礎を確立せしめ置くことを主張  
するものである。

項目は畧ば教科書の順に排列したが教授の際互に  
融合混和することの必要なることは云ふまでもない  
文章体に書いたのは教科書に準じたからである  
本縣地理を教授する時間數を三時間と豫定して資

料を拾ひ集めたのであるが如何。

教授の際は全文と本縣畧圖を謄寫して畧圖は教授  
の際に書き入れしむる様にしたい積りである

案は走り書きしたもので不備の點が多いことを免  
れぬこゝに愚案の概要を提供して大方諸賢の御批正  
を仰ぐ譯である

### 本縣地理

位置、面積、人口。

九州の東南に位す東は太平洋に面し南は鹿児島縣  
西は熊本縣北は大分縣に接す

面積は凡そ五百方里あつて人口は約六十萬あり

行政上の區分  
行政上、宮崎郡、南那珂郡、北諸縣郡、西諸縣郡  
東諸縣郡、兒湯郡、東臼杵郡、西臼杵郡 の八郡  
に分つ。

### 地勢

東西に狭く南北に長し、海岸は出入少く良港に乏  
し、他縣に境する方は山脉横はりて交通不便なり

太平洋に面する方は平野稍々多く西北部に至るに  
從ひ山岳重疊す、併し大淀川の上流都城附近は廣  
大なる平野あり

川には大淀川の外耳津川五ヶ瀬川等ありて太平洋  
に注ぐ

産業。  
氣候暖にして土地肥け、平地には農業、養蠶業、  
牧畜業、製茶業、等盛なれどもまだ開拓の余地あ  
り

山地には木材、薪炭、椎茸等多く産す

海岸地方は水産業盛なり

交通  
鐵道宮崎線は鹿児島本線吉松驛より股れて小林、  
都城の平野を横ぎりて東岳の山中をくゞり宮崎に  
出づこれより福島驛を経て妻まで開通せり

其他宮崎の對岸大淀より内海港まで及飯肥より油  
津港まで輕便鐵道あり

海岸は中部に内海港南部に油津港北部に細島港あり



りて大阪鹿見島間の要路に當れり  
都會

宮崎は大淀川の河口に當りて縣廳、地方裁判所、師範學校、中學校、農學校、農事試驗場、測候所、日州銀行等あり。中部第一の都會なり

神武天皇を祀る官幣大社宮崎神宮は宮崎の北方一里の處にあり

この附近の青島、及一葉濱は風景に富み四方より遊覽の客多し

飲肥は舊飲肥藩の城下にして南那珂郡役所あり。油津は南部の良港にして船舶常に出入す。

この地の梅ヶ濱は風景の勝地なり。

大島には大島燈臺あり  
鶴戸神宮は鶴鶴草葺不合尊を祭る官幣大社なり。都城は平野の中央にありて郡役所あり、貨物輻湊し商業盛に行はれて南部第一の都會なり。

この地一帯は平野廣くして農業、養蠶業、製茶業等盛なり

この地方はもと薩藩の分領地にして人情風俗等鹿見島に異ならず鐵道開通前は商業上の取引も鹿見島となせり

歩兵第六十四聯隊はこの地にあり  
舊城内には神武天皇の都し給ひたりと傳へらるゝ都嶋古趾あり

小林は西諸縣郡役所の所在地にして都城平野の中にあり

霧島山は鹿見島縣との境にありて高さ六千尺に近き靈峰なり

この東麓に當る神武天皇の御誕生地と稱する狹野には官幣大社宮崎神宮別宮あり

吉田温泉は鐵道線路に浴客多し  
高岡は大淀川の中流に沿ふ東諸縣郡役所あり

高鍋はもと秋月藩の城下にして兒湯郡役所あり  
この西方に當る妻附近の西都ヶ原は古代古墳頗る多し、往古の國府の跡と稱する處もこの地にあり

この西方、は平野廣くして農業養蠶業等盛に行はる。

延岡は延岡藩の舊城下にして五ヶ瀬川に沿ふ、北部第一の都會にして東臼杵郡役所、中學校等あり

細島は北部第一の良港にして船舶の出入多し  
西南の役に名高き可愛岳は延岡の北方にあり

郡の西方西臼杵郡に境する地方には銅山錫山等多く産額少からず。

高千穂は山間の一色にして西臼杵郡役所ありこの地方は煙草麻等を多く産す

### 校外教授

(植物)

都城校 鹿 島 透

校外教授特に植物教材に於ける校外教授は近頃随分唱へられるやうになつて來たがこれが實施を見ることの少いのは遺憾なことである蓋しこれが實施の困難なるは第一に時間が許さぬこと第二に適當な場所の發見に苦しむことによると思ふ然らばこの二問題

あるが爲めに校外教授はこれを忽にするも默許すべきかと言ふに決して然らず、その價值たるやこの二問題を以つてするも充分の價あること、信ず、又第一の條件はさて置き第二の條件は特別の地方は兎も角も教授者其の人の熱心によつては適當な場所の發見もさまでの難事でもあるまい、現に鹿見島廣島等の諸縣下の或る小學校に於ては既に校外教授地圖等作製して其の場所を示して居ると聞く然らば其の價値果して如何と言ふに、抑も理科は自然界の事物を其の對象とした科學であるが故に小學校に於ける理科も自然界と言ふことは片時も度外することを許さぬ自然から抽出され材料恰も筆筒から離された鍵のやうに何等役に立たぬのである、その筆筒について始めて用をなしその自然に抱擁されて始めてこゝに意義あり潤澤が生ずるのである單に油菜の花のみ摘み切つて來て机の上花辨が幾枚雄雌誰何本へへて見た所て何の意味があるか従つて兒童の興味を惹くこと少く理科はこゝに死物のやうな感を彼等に與



へるのみてある。埜も葉も根もつけ更にこれを廣々とした畑に植へて蝶等が楽しさうに舞ふて居る處にこそ油菜の眞の意義は存し理科の眞義も亦存するのてあ。この有様を見る時彼等は湧然として興味を起し研究動機も勃然として湧くのである。同じ自然に抱擁さるゝ人が自然を好むは當然の理ではあるまいか校外教授の必要實に瞭然である。昆蟲と花との關係植物と土質場所との關係等はいくら教室で力説してもこれを郊外に於て實見せしむるには如かずだ、如何に兒童の自發的研究心を挑發せやうとあせつた處がその根本に立ち入つて考探せねば駄目だ從來はあまりに標本が重視せられてゐたやうに思はれる。それで恰も理科は標本模型の研究學の様な感があつたそれで以つて其の目的に到達せやうなどは丁度山に登つて魚を求むるやうなものだ活きたものを好む實見に標本模型のやうな死物を與へてどうして興味を起させることが出來やうか

外に出ればみらるゝやうなものを仰山らしく學校に植ゆるのは一寸滑稽な學校園は學校園の爲めの學校園ではない兒童に實驗觀察せしむる爲めの學校園だ故に其の近郊に於て容易に採集し得らる様な植物は植へる必要はない然し學校か土地に於て充分の餘裕がある所は問題外然らば如何にして實施するか先づ第一に郷土の植物及其の場所の研究を精細にせねばならぬこれか容易でないことである熱心家が居て研究してある處はよしとして研究してない所は是非とも委員でも選定して日究すべきである（これは單に植物のみならず）この場所がよく研究されて地圖でも作製されたなら實施も大層容易になる即ち地圖を兒童に示し各自に觀察せしむるもよし教師兒童俱に行きて研究するもよししかしこゝに注意すべきは其の觀察の順序方法である。これを先づ教へて置かねば彼等は到底満足に研究することは出來ないそれを始めはどうしても教師の指導に俟たねばならぬのである。この豫備的

の仕事をして置かないで其の効力の不成績を歎くは一を知つて二を知らぬものである。次は時間の問題であるさなきたに時間に不足を感じる教授に於て校外教授など願々やつたなら如何と言ふ問題は忽ち想到する疑問であるかこれは体操とか或は其の教材に比較的重要なない教材とかに於て充分埋め合せかつくことと思ふ

校外教授は實驗觀察を授くるは勿論その背景である自然を知らしめて益々其の事物を鮮明にし且つは統一ある知識を與へ自然に親しむの力を養ふこと最も大なりと思ふ。

### 教材の取扱の研究につきて

都城 坂元 正一

兒童に學ばしめよ

理科教授に於て兒童をして學習せしむるとは、今日盛に唱へられて居るか、實際實行難である様である。曰く設備經濟不充分の爲め不可能と。是は未だ考

へる余地のある問題ではないかと思はれる。教師の努力工夫によりては、僅少なる經費によりて出來得るのである。簡易器械の製作、用具の日用品代用、諸工場の利用等教師の努力によりて如何にとも成し得らるゝものとして設備經費の問題は第二のとはないかと思はれる

#### 教師の努力

何の仕事に關せず、其の目的を達するには、具體的な方案が大切である。殊に理科に於ては對象物か種々雑多であるから、指導の方法を研究し豫定して掛らなければなるまい

一 季節に適合せる教師用教授細目の作製

二 兒童に示す理科細目の製作 是は教場の一隅に掲げて次の學習の準備を成さしめるのである。是れには研究物の所在地及び用具まで指示するのである

三 教材及び作業案 學校園の作業及び教材の栽培等を豫定しておく

四 郷土教材を知らしめる爲め地圖を製作し兒童に



揭示すると及び地質をも記入しなれど  
五、児童に持たしむべき用具及び教材等を表に作り  
揭示しておくこと

以上の事項は児童を學ばしめる方面から教師が努力  
を要することではないかと思はれる

#### 教師の學力の修養

児童自身が學ぶことになる。教師も、うつかり教  
壇に立てない。私如き理科の知識に乏しきものは  
質問を續發されると、誠に困るので、時々急所を  
突かれて開た口か閉らん目にあうとあります。教  
師としては、出来るだけ満足なる答を與へる人にな  
ければ、ならぬと切に感じて居る次第であります  
然し又分らん子を無理に教へようとするのは、理科  
教授の目的に反することに、なりますから、是は男  
らしく知らずとか、分らずとか云ひたい。親が子に  
向つて知ぬと云つても子は無能なりとは云はぬと同  
し理で児童は直に無能なりと判定しない。反りて研  
究の必要なことと云ふことに感せしめて、おきたい。

俗に「コジリツケ」と云ふが如きは絶対に禁物と思ひ  
ます、尙教師としては、最大のベストとを盡せば足  
りると信じます

要するに児童は教師以上に仕立て、次の時代の文化  
に貢献し又活動する様に導くとか大切なと思れるの  
であります、是の點に於て教師は絶へず學力の修養  
が大切なと思ふ所以であります

#### 教師の此の科に對する態度

教則第七條に示されたる目的は常に服膺し左の條項  
をも加へて目的の遂行に努力したい

- 1、吾人に完全なる知識を與ふること
- 2、殖産興業及び物質文明に貢献するとの偉大な  
こと
- 3、正確に事理を判斷する能力を養ふこと
- 4、研究學習の動機を興奮せしむること
- 5、學習の精神を意識せしめ自ら國家社會の發展  
に貢献すること

此の點から考へても、大に自學を奨励したい、ので

ある

#### 實驗觀察法の指導

此の科では特に教材の準備に忙しいので、教師獨り  
では仲々困難であるから児童用細目によりて、採取  
せしめたい

- 1 採取の場所
- 2 周囲の状況
- 3 自然物相互の關係等

注意を與へて其の方法を會得せしめておく理化の  
用具の如きも、細目によりて、準備せしめて教師の  
勞力を減したい。教材に對して、出来るだけ児童に  
骨折らせて、準備せしめるのが希望である。教授の  
場所は限定することは出来ない様で、學校園  
或は郊外工場適當の地を選定して指導し實驗觀察の  
目的を充分にさせたい

#### 第一動物教材の取扱

##### 一 教授の出発点

- 1、習性より形態の研究に進む法

- 2、形態より習性の研究に進む法

- 3、習性と形態とを同時に關聯せしめて進む法

- 4、人生に關する利害關係より入る法

- 自力によりて實驗觀察せしむ

- 採取に當り觀察要項を指示すべし

- 2、實物は容易に得らるゝも數の少き場合

- 團體を作り順次觀察せしむべし

- 極めて少數のときは組分して一定の場所に集

- めて觀察せしむべし

- 又要項を示して机間を持ちあるきて觀察せし

- む

- 3 教材は得るに難からざるも教室内に持來ること

- 5 其の住所及び生活を觀察せしめて置て、之を出

- 發點として、教授中絶へず其の物の生活せる場

- 所生活の狀態を背景に描て問答し推考せしむる

- 法

- 二 全取扱

- 1 實物は容易に之を得らるべく且つ容易に教室内



に持來ることの出来る場合

各自に事物を採取せしむ

實物は缺損なきもの

不可能なる場合

先づ觀察すべき要項を示しおくか又は模型圖を以て事實を授け後郊外教授をなすべし

4 生態的方面の取扱法(順應)

住所、陸上、山(截土中)、空中

海中河中(水面水中水底動物か)

食物、動物性か、植物性が貯藏するや否や

及場所方法

巢及び幼時の養育 巢を作るや否や及材料

方法幼時の養育法如何

發言の狀態、變体をなすや 及び經過

移動法 方法(普通、變事)

食物攝取方法。体形との關係

自衛の狀、生活の狀、分布の範圍、相互の關係

5 形態方面の取扱法

形大さ及び色体の部分は如何に分るか

(頭、胸、尾)

6 人生に關する方面の取扱法

食用となるや(其の何の部分)工業等に用ひら

るや(其の何の部分)

肥料となるや薬用となるや裝飾となるや

其他の利害關係

7 形態と習性とは成るべく相聯して趣味ある教授

をなし兒童の觀察たる事項は一々記入せしめよ

8 動物進化の階段原生の海綿 腔腸 棘皮 哺乳形

軟體 節足 脊椎動物で教師は豫め何の位置に

ある動物かを知るの必要がある

第二植物教材

一 教授の出發點

特に兒童に接近せる部分最も眼につく部分は

一、花及び果實

二、味ひ

三、形態の特異なる點

第三礦物教材

一 教授の出發點

一 人生に利用せらるゝ點

二 美感に訴へると云ふ何れにか出發點とすべし

二 全取扱

1 成るべく自然界の其の場所其物てつきて研究せ

しむべし

2 人生との關係に一層重きを置きて研究せしむべ

し

3 各方面の取扱

成因及び所在

成分

性質 色及び色澤 劈開及び斷口 硬度

種類 分類 特徴

用途 何に用ふ 種類と用途 用途の改善擴張

第四生理衛生教材

一 教授の出發點

1 教授既知の事項を基礎とすべきは本教材に於て

此の内兒童の注意興味を喚起するものを出發點と

したい

1、形態 生態を觀察するに止めず 進んで人生

との關係を明にせよ

2、教材の數少きときは組分けして觀察せしめよ

3、教室に持ち來ると能はざる教材は郊外教授を

なす

4、學校園の利用

5、教授は問題の形によりて進むべし

6、生態方面の觀察

自生の場所 地質 特種生活の狀 自衛の狀

種子の散布 分布の範圍及相互の關係

7、形態方面の觀察

根 莖 葉 花及花序果物及種子

8、人生に如何に利用せらるゝか 又有害なるか

又將來如何に利用せらるべきものか



一層大切なり

2 日常兒童の身體上に現れ来る利用せなければならぬ

### 二空取扱

1 人體の解剖材料の取扱

自己や他人の身體 人類に近き動物體摸型 繪書等を使用して教授するより外なし

2 理科的法則や 生物學上の應用を試みることに出来ること多し

3 人體生理材料の取扱

一部解剖教授に基き又一部理科學的法則を應用すべし

4 衛生材料の取扱 他動植物の生活に關する知識を出發點とすべし

理化學的法則なり 生理學上の理法なり 生物學上の理法により 演繹して日々の育兒や 衛生上行はれ居る事柄の理由を説明させるか又は新に健康の増進上必要なる方法を論定せしむるに

りてある

イ時間 觀察的實驗歸納的説明の場合になす

證明的實驗演繹的説明の場合になす

ロ順序 順序整然たらしむるは大切なり

ハ程度 此の事實を教授するには何れの現象を生せしむればよいかと云ふ程度を豫定しおくことか必要である

ニ器械の檢定 器械は豫め檢定しおくことか必要である

ホ教師自身の試験 如何に使用せば 如何なる現象を生ずるか 又現象を生し安からしむるかにつきて試験しおくこと

8 實驗の經過及び結果は特に注意して觀察せしめよ

三兒童をして實驗觀察せしむ可き要目 左の順により記述せしむ

イ題目

ロ實驗の目的

あり

### 第五理化教材

#### 一教授の出發點

物理教材は面白く出發することか出来るが化學教材はかやうに行かん従つて化學の方は成績も不良である故に吾人は何のために理化を教へるかといふことに就いて深い意識を以て教壇に臨むことか大切であると思ふ

#### 二觀察實際

1 觀察せんとする現象を人局的に生せしむるの實驗

2 觀察正鵠であつたか否かを証明するための實驗

3 教室の現象を證明するための實驗

4 實驗は簡單明瞭なるべし

5 使用する機械は簡單なるべし

6 機械は觀察せんとする現象のよく現はれたものてなければならぬ

7 理化學教授實驗をなすに注意すべきことは次の通

ハ用いたる材料

及裝置圖を書かしむ

ホ用ひなる手續

ハ觀察に基く推論

ノットノ校正を教師にはなす

天文地文教材

1、天文に關することは圖或は寫真によりて説明するより外仕方はあるまい

2、地文に關することは實地踏査せしむ

3 其外の模型によりて説明し得ることも 大切である

#### 結論

要するに理科の教材は實驗觀察の目的を意識せしめて取扱はせたい 各種の教材につきては漸次學習の方法をも意識せしめて繼續的に研究に努力する様に仕向けたのである又自發的に教材を研究せしむるとも教育の修養に待たれるので益々教師の努力勉學によりて教材研究の必要を叫ぶ所以である



# 改正規則

## 宮崎縣教育會北諸縣郡支會規則

### 第一章 總 則

第一條 本會ハ宮崎縣教育會ノ旨趣ニ基キ郡内教育ノ改善發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ宮崎縣教育會北諸縣郡支會ト稱シ事務所ヲ北諸縣郡都城町大字下長飯番外北諸縣郡役所内ニ置ク

### 第二章 會 員

第二條 本會々員ハ宮崎縣教育會々員ニシテ本郡内學校ニ在職スルモノ及本郡内ニ居住スルモノトス但シ中央支會ニ屬スルモノハ此ノ限ニアラス

本縣教育會定款第五條ニヨリ入會セントスルモノハ住所氏名ヲ記シ本會事務所ニ申出ツヘシ

第四條 本會ハ本會ニ對シ特ニ功勞アルモノヲ推薦

シテ終身會員トス

五五

第五條 本會ハ本郡内ニ於テ學識名望アルモノヲ推薦シテ名譽會員トス

第六條 會員所屬ヲ變更シ若クハ退會セントスル者ハ其ノ旨事務所ニ申出ツヘシ

### 第三章 事 業

第七條

本會ノ事業左ノ如シ

一 會報及圖書類ヲ發行スルコト

一 教育ニ關スル諸般ノ研究調査ヲナスコト

一 教育視察員ヲ派遣スルコト

一 官廳其他ノ諮問ヲ答申シ若クハ建議スルコト

一 講習會展覽會講演會ヲ開クコト

一 本郡内ニ於ケル教育上功勞アルモノ優良ナル小學校兒童及實業補習學校生徒ヲ表彰スルコト

一 會員ノ吊慰ヲ行フコト

一 其他教育上有益ナル事業

第八條 前條第二號ノ事業ヲ遂行スルタメ研究部並

調査部ヲ設ク

### 第四章 役 員

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一 會長一名

一 副會長一名

一 幹事二名

一 評議員十二名

一 調定部員十五名

一 研究部支部長四名

一 書記若干名

一 前項ノ外必要ノ場合ニハ臨時委員ヲ置ラコトヲ得

第十條 本會役員ノ職務左ノ如シ

會長 本會ヲ代表シ事務ヲ總轄シ總會其他

ノ議長トナル

副會長 會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ代理ヲナス

第十一條 本會役員ノ選任法左ノ如シ

一 會長副會長總會ニ於テ之ヲ選舉ス

一 評議員ハ各町村ニ於テ其町村會員中ヨリ各一名ヲ選舉ス

一 幹事書記ハ會長之ヲ囑托ス

一 研究部長ハ本郡視學ニ委嘱スルモノトス

一 調査部委員ハ總會ニ於テ單記無記名投票ニ依リ之ヲ選舉ス但シ本會ノ他役員ハ調査部委員タルコトヲ得ス

五六



一臨時委員ハ必要ニ應シ會長之ヲ囑托ス

第十三條 本會役員ノ任期ハ各ニケ年トス但シ補缺ニ依リ選舉セラレタルモノハ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十三條 縣教育會定款第十一條ニ依ル評議員ハ總會ニ於テ之ヲ選舉ス

第五章 集會

第十四條 總會ハ毎年一回春季開會スルヲ常例トス但シ會長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ會員五分ノ一以上ノ目的事項ヲ示シテ請求シタルトキハ臨時總會ヲ開クコトヲ要ス

第十五條 總會ニ於テ舉行スヘキ事項左ノ如シ

- 一 本會々務ノ報告
- 一 研究調査及視察ニ關スル講演及討議
- 一 其他必要ト認ムル事項

總會ニ於テ議決ヲナスハ出席會員ニ限ル

第十六條 總會ノ召集及會議ノ目的タル事項ハ豫メ之ヲ通知スルモノトス但シ會長ニ於テ緊急ト

認ムルトキハ豫メ通知シタル事項ノ外ト雖總會ノ議案トナスコトヲ得

第十七條 評議員會ハ毎年一回以上之ヲ開キ左ノ事項ヲ議決ス

- 一 決算
- 一 決算ノ承認
- 一 其他會長發案ノ事項

會長ニ於テ總會召集スル暇ナシト認タル時ハ總會ニ代リ其ノ事件ヲ議決スルコトヲ得

第十八條 本會ノ議事規則ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 資產

第十九條 本會ノ資產左ノ如シ

- 一 本會ノ所有スル動產不動產有價證券及之ヲ生スル收入
- 二 會費
- 三 篤志者ノ寄附ニ係ル金錢物品及其他ノ收入

本會資產ノ管理及處分ハ評議員會ノ決議ニ依リ

第二十一條 本會會費ハ月額金拾錢トス

但シ縣教育會並本會ノ終身會員及名譽會員ヨリ會費ヲ徵收セズ

第二十二條 本會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月卅一日終ル

第七章 附則

第二十三條 本規則ハ評議員會又ハ調查部委員會若クハ會員拾五名以上ノ同意ヲ經ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

第二十四條 本規則施行ニ關スル細則ハ評議員會ノ意見ヲ開キ會長之ヲ定ム

北諸縣郡教育支會研究部規定 (大正五年七月八日決定)

第一條 本部ハ教育ノ理論及ビ實際ノ研究其ノ進歩統一ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本部ハ本部内小學校關係者ヲ以テ組織ス

第三條 本部ニ左ノ四支部ヲ置ク

- 第一支部 都城町 中鄉村 五十市村

第二支部 庄内村 西嶽村 山田村

第三支部 高崎村 志和池村 高城村

第四支部 山之口村 三股村 沖水村

第四條 本部ニ左ノ役員ヲ置ク

部長一名 支部長四名

部長ハ本部視學ニ委隔シ支部長ハ各支部ニ於テ會員ノ互選トス

第五條 役員ノ職務權限左ノ如シ

部長ハ本部ヲ統轄ス

支部長ハ其ノ部ニ屬スル事務ヲ統理ス

第六條 本部ノ業務ヲ分テ左ノ四トス

- 一 經營研究會
- 二 研究部總會
- 三 學年打合會
- 四 教科主任會

第七條 一經營研究會ハ學校長ヲ以テ會員トシ毎年九月之ヲ開キ學校經營ニ關スル事項ヲ研究ス

二研究部總會ハ毎年秋期一回之ヲ舉行シ其ノ行フ事項概ネ左ノ如シ



- 1 實地授業
  - 2 教育上ノ研究發表
  - 3 教員ノ研究ニナレル意匠品及論文ノ陳列
  - 4 模範教授又ハ講話等
- 三學年打合會ハ各支部ニ於テ同學年ノ受持教員會合シ當該學年ノ教授訓育等ノ研究ヲナス
- 四教科主任會ハ各支部ニ於テ開キ同教科主任會合シ當該教科ノ研究ヲナスモノトス
- 但シ本部長ニ於テ必要アリト認メタル場合本部ニ召集スルコトヲ得
- 第八條 經營研究會及研究部總會ニ關スル細案ハ本部長ニ於テ之ヲ定メ學年打合會及教科主任會ニ關スル細案ハ各支部長ニ於テ之ヲ定メ本部長ノ承認ヲ經ルモノトス
- 第九條 本規定ハ大正五年九月一日ヨリ施行ス

### 調查部規程

第一條 本會ノ事業其他本會ニ關シ調査ヲ要スルモ

- ノアルトキハ調査部員ニ於テ之ヲ爲スモノトス
- 第二條 調査委員ノ互選ニヨリ部長一名ヲ選出ス
  - 第三條 調査部長一切ノ事務ヲ統轄スルモノトス
  - 第四條 調査會ハ左ノ各月ニ開催ス  
二月 四月 六月 十月  
但臨時ニ開會スルコトアルベシ
  - 第五條 調査部委員ハ毎年六月會ノ會計ヲ調査スルモノトス會長ハ必要ニ應シテ調査部員ヲ召集ス
  - 第六條 調査部長ハ會長ノ承認ヲ經開會ノ日時場所及ビ調査ノ要項等ヲ具シ期日三日前ニ各委員ニ到達スル様通知スルモノトス
  - 第七條 調査部委員ハ前條ノ通知ヲ受ケ出會シ能サル時ハ其事由ヲ詳具シ部長ヲ經テ會長ニ届出ツルモノトス
  - 第八條 調査部長ハ調査終了後七日以内ニ文書ヲ以テ會長ニ報告スルモノトス

### 第九條

調査部委員ハ本會ニ於テ調査ノ必要アリト認メタル事項アルトキハ委員二名以上ノ同意ヲ得テ事項ヲ具シ部長ニ調査ヲ要求スルコトヲ得

### 第十條

調査部ハ調査ノ必要上委員ノ郡外出張ヲ會長ニ申請スルコトヲ得但此場合ニハ本會ヨリ相當ノ旅費ヲ給スルモノトス

### 第十一條

調査部ハ文書ニヨリ郡長ノ名ヲ以テ何時ニテモ會長ニ意見ヲ陳述スルコトヲ得

### 第十二條

調査事項ハ之ヲ記録トナシ本會ニ保存シ置クモノトス

### 表彰規程

(大正五年七月八日修正)

### 第一條

本會ハ本規程ニ從ヒ北諸縣郡内教育上功勞アル者及全郡内小學校兒童並ニ實業補習學校生徒ノ優良ナル者ヲ表彰スルモノトス

### 第二條

左ノ各項ノ一ニ該當セリト認定シタルモノニハ賞狀若クハ賞品ヲ授與スルコトヲ得

一本郡教育上特ニ功勞アルモノ

二品行學力共優良ナル小學校兒童並ニ實業補習學校生徒

三義務教育終了期間無缺席ノ者但シ急引ノ爲

缺席シタル時ハ出席ト同視ス

四前各項ノ外兼ノ模範タルベキ奇特ノ行爲ヲ

ナシタル小學校兒童並ニ實業補習學校生徒

ハ會長ハ委員會ヲ開キ更ニ審査ノ上賞品若ク

ハ賞狀ヲ授與スルモノトス

前條ノ審査委員ハ本會評議員ヲシテ之ヲ兼

ネシム但正副會長ハ委員ノ數ニ加フベキモノ

トス

### 第五條

委員會ニ於テ三分ノ一以上ノ否認者アルトキハ賞品若クハ賞狀ヲ授與セザルモノトス

### 第六條

本規程ニ依リ表彰シタルモノアルトキハ本會ノ雜誌ニ掲載スルモノトス

### 第七條

賞品若クハ賞狀ヲ授與スヘキ者アル時ハ



會長ハ可成公衆へ表彰シ得ベキ方法ニ依リ之ヲ授與スベキモノトス

第八條 本規程ノ旨趣ハ豫メ各小學校ニ通シ之ガ効果ヲ大ナラシメンコトヲ計ルベキモノトス

附 則

第九條 本規程ハ明治三十五年一月一日ヨリ施行ス  
宮崎縣教育會北諸縣郡支會

本規程第二條三ノ該當者ハ毎年四月末日マデニ其學校長ヨリ本會長ニ報告相成度

### 原稿募集

六一

本學年度の本支會誌は乾坤一轉の新春劈頭發行の豫定なり今回は地理理科の研究報告なりしも次號は普通の教育雜誌として發行せん晩近教育的理論に於て教育教授の實際に於て旭日昇天裡にある本郡教育界には論すべく攻究すべき問題も山積するならん冀くは會員諸彦日頃の御研究御造詣を本支會の爲め御洩らしあらんことを原稿紙は成規のもの調製せり御要求に應じ御用に立てん早目に御投稿の程を



會長ハ可成公衆へ表彰シ得ベキ方法ニ依リ之ヲ授與スベキモノトス

第八條 本規程ノ旨趣ハ豫メ各小學校ニ通シ之ガ効果ヲ大ナラシメシコトヲ計ルベキモノトス

附 則

第九條 本規程ハ明治三十五年一月一日ヨリ施行ス

宮崎縣教育會北諸縣郡支會

本規程第二條三ノ該當者ハ毎年四月末日マデニ其學校長ヨリ本會長ニ報告相成度

### 原稿募集

六一

本學年度の本支會誌は乾坤一轉の新春劈頭發行の豫定なり今回は地理理科の研究報告なりしも次號は普通の教育雜誌として發行せん晩近教育的理論に於て教育教授の實際に於て旭日昇天裡にある本郡教育界には論すべく攻究すべき問題も山積するならん冀くは會員諸彦日頃の御研究御造詣を本支會の爲め御洩らしあらんことを原稿紙は成規のもの調製せり御要求に應じ御用に立てん早目に御投稿の程を

大正六年十一月八日印刷  
大正六年十一月十五日發行

(非賣品)

編輯人兼

宮崎縣北諸縣郡都城町大字下長飯四一九七番地

重 信 政 敏

印刷人

宮崎縣北諸縣郡都城町大字下長飯三九三三番地

小 林 愛 藏

印刷所

宮崎縣北諸縣郡都城町宮九三四一九番地

都城通信社活版部

發行所

宮崎縣北諸縣郡都城町北諸縣郡役所内

宮崎縣教育會北諸縣郡支會



終